Universal Media Transport plus

Users Manual

MSB ユニバーサル・メディア・トランスポート・プラス

[取扱説明書]

もくじ

はじめに

このたびは、MSB テクノロジー ”Universal Media Transport plus” をお買い求めいただき誠にありがとうございます。
本取扱説明書には、本機の設置や操作についての重要な情報が含まれています。
本機の優れた機能・性能を存分に発揮させ末長くご愛用いただくため、本説明書を一通りお読みの上、設置や操作の詳細について充分にご理解いただき、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。

[本機の概要]

”Universal Media Transport plus” は、MSB テクノロジーの最新技術によって製作された高品位なデジタルオーディオ・トランスポートとして、CD, SACD, BluRay, DVD を始めとする全てのデジタルディスクと、ネットワーク、USB などのあらゆるデジタルメディアの再生を可能とし、D/A コンバーターにハイレゾルーションのデジタルオーディオ信号を送り出す MSB 独自のユニークな機能/性能を有しています。

そして勿論、本機はオーディオのみならず BluRay や DVD などの HDMI1.4 準拠の高品位映像出力をも装備していますが、音質に多大な影響を及ぼす DC 電源は別筐体とし、その上さらに、オーディオ系とビデオ系を分離独立した電源供給をも可能としています。通常、本機標準の "Desktop Power Supply" または MSB Transport 用の電源(例えば "Signature Transport Power Base") の一台での駆動が可能ですが、それらを二台使い本機に装備された二系統の電源入力に接続すれば独立電源供給を果たし、音声/映像回路相互の干渉をミニマイズした理想的な高品位再生を実現します。

●ユニバーサル・メディア・トランスポート・プラスのフィーチャー
・デジタルディスク・プレーヤー機能: CD, SACD, BluRay, HRx, DVD, DVD Audio,
・ネットワーク LAN ミュージック・ストリーマー機能
・USB メモリー・プレーヤー機能
・外付 HDD プレーヤー機能
・HDMI 出力(映像/音声分離)
・対応サンプルレート: 44.1kHz～192kHz
・デジタル出力 : <Coaxial>, <Toslink>, <AES/EBU>, <HDMI>, <MSB PRO I2S *>

> *MSB PRO I2S とは、
> MSB DAC から超低ジッターのマスタークロックを本機に送り、それに完全同期して本機を動作させ超低ジッターでデジタルオーディオ信号を DAC に送る方式です。
> 相互の接続は CAT6-LAN ケーブルを用います。送られるデジタルオーディオ信号は I2S フォーマットに準じて L/R データとワードクロック、ビットクロックを完全分離し、超高精度・超低ジッターを実現しています。また、MSB DAC に対しては SACD の DSD 信号もネイティブで送られます。

ディスクドライブメカニズムとコントロール系はマルチメディアメカ製造において定評の oppo 製を採用しながら、デジタルオーディオ信号処理と電源系は全て MSB のオリジナル技術によってカスタマイズしています。
例えば、マスタークロックです。一般的に A/V プレーヤーではマスタークロックはディスクドライブ系に置かれ、そこからオーディオ回路にも供給されます。しかし、そこでの問題はノイズと不安定要素です。ドライブの回転とビデオ系の駆動に影響されてマスタークロックの品質は劣悪となりオーディオ信号処理に多大なジッターを与えるのです。
MSB ”Universal Media Transport Plus” では、そうした影響を回避するため、マスタークロックはオーディオ回路側に置いています。ピックアップしたオーディオ信号データは、一旦ソリッドステートメモリーに取り込まれ再整列して送り出します。ジッターフリーでビットパーフェクトなデータ・トランスポーテーションを可能とする音質最重視の優れた方式です。

また、上述の MSB PRO I2S インターフェースを使うと、マスタークロックは MSB DAC 側からの供給となりさらに強固な信号処理がなされます。

ご使用用上の諸注意

本機を安全にご使用いただくため、以下の点にご注意ください。

■火災や感電等の危険を避けるため、湿気の多い場所や水のかかる場所で本機を使用しないでください。
■火災や感電等の危険を避けるため、本機のカバーを取り外さないでください。内部にはお客様に調整していただく箇所はありません。
■本機を、水のかかりやすい場所、湿気の多い場所で使用しないでください。
また水がかかった時は、すぐに電源コードをコンセントから抜いてください。
■本機の内部にヘアピン等の特に金属の異物が入りこまないよう、充分にご注意ください。
■本機を、暖炉やストーブなど熱源の近く、あるいは熱を発生する機器の付近で使用しないでください。
■本機を、直射日光の当る場所、あるいは低温になる場所で使用しないでください。
■本機は指定された電源以外では使用しないでください。
■本機のお手入れには柔らかい布をご使用ください。水やダストスプレー、溶剤、研磨剤、クリーニング剤などを直接シャーシに付けることは避けてください。

[設置について]

●オーバーヒート防止のため、本機の両側、ならびに上方には通気を確保する空きを設けてください。
●フロントパネルにはリモコンの受光部がありますので、ラック内に設置するような場合、フロントパネルが扉などで隠れてしまわないようご注意ください。
リモコンは、赤外線ですから、ガラスなどは問題なく透過します。

[接続の前に]

■接続は、本機および接続する機器の電源コードを抜いてから始めてください。

付属の電源コードの取扱いについて

本機付属の電源コードは本機専用です。他の機器にはご使用になれません。

クイックスタートガイド

[セットアップと接続]

1.　ディスプレー ：DVD, BluRay, USB, ネットワークでの再生にあたっては、外部ディスプレーを HDMI 接続する必要があります。

2.　インターネット環境 ： インターネットからのストリーム再生や本機のファームウェア・アップグレードの際は LAN ケーブルでインターネット環境に接続する必要があります。(無線 LAN は推奨しません)

3.　デジタルオーディオ出力の接続 ：MSB DAC への接続は CAT-6(LAN)ケーブルを使って本機の MSB ProI2S 出力端子と MSB DAC の ProI2S 入力端子を接続してください。MSB 以外の DAC との接続は、その他のデジタル出力端子(1-5)をお使いください。

※ディスクソース再生の操作 ： 通常はディスクをトレーにセットし閉じると再生が始まります。
※ファイルソース再生の操作 ： ディスプレーを見ながらリモコンの HOME メニューボタンを押し、上下左右の方向ボタンと RETURN ボタンで目的のソースを選びます。

[MSB システム]

本機はMSB DAC(AnalogDAC, DAC IVシリーズ)との間で<MSB Pro I2S>接続を行なうと、DACのマスタークロックで本機を完全同期させたビットパーフェクトな高精度ドライブが可能となります。また、このI2S接続では、相互のグランドが切り離され、デジタル信号はL/Rデータとワードクロック、ビックロックの三つが分離して伝送されますので、極めて低ジッターでのデータ授受が実現します。そしてさらに、I2S接続では、PCMの伝送レートは実に32bitを達成し、SACDのDSD信号はダイレクトにMSB DACに送られるという、極めて高いレゾルーションによる理想的なD/A変換が実現します。

↑ MSB DAC ProI2S 入力端子

[ビデオセッティング]

ビデオモニターに際しては、ご使用のディスプレーに応じて適宜、ビデオ・セットアップメニューとHDMI 設定の変更が必要です。

[オーディオセッティング]

本機のオーディオプロセッシングメニューの設定変更は音に多大な変化を与えますので、変更はお勧めしません。尚、唯一安全なメニュー変更項目はディレー(リップシンク)機能です。

[アドバンスド・オーディオセッティング]

MSB DIGITAL AUDIO OUTPUT 端子からの MSB 独自のデジタルオーディオ出力は、SACD 再生における DSD 出力形式の切替(DoP または PCM 変換)、出力チャンネルの切替(デフォルト=2ch か、マルチ ch)、クロックポートの IN/OUT 切替など様々なモード設定が可能です。 (リモコンでの特別な操作を要します⇒　ページ参照)

[ネットワークプレーヤー]

本機はネットワークプレーヤーとして PC やネットワークに接続された NAS などの音楽データを再生できますが、そのためには、それら音楽データの共有設定が必要です。PC や NAS などの適切な設定を行なってください。

[バーンイン]

一般的にオーディオ機器は配線材やコンデンサーなどの特性により、機器がベストコンディションに達するまで音楽再生による「バーンイン」運転が必要です。そのバーンイン時間には 100～500 時間程度を要します。

リアパネル各部と接続

1. DC 電源入力

別売の電源ユニット(Desktop Power Supply または、Signature Transport Power Base などのトランスポート用、あるいは DAC IV シリーズ用の Power Base)の 12VDC 出力から左側の 12V DIGITAL SUPPLY 端子に接続します。

※右側の 2ND DIGITAL SUPPLY 端子はアップグレード電源入力端子です。もう一台の電源ユニットが接続することで、ビデオ/ドライブ・セクションとオーディオ・セクションの電源供給が分離され、更なる高 S/N 再生が実現します。、

Desktop Power Supply　　Signature Transport Power Base

2. RS232 端子

システムコントローラーで本機を操作する場合の端子です。

3. COMPUTER LAN

ホームネットワーク(インターネット環境)に接続します。(ネット・ストリーミング再生、NAS 再生、ファームウェア・アップグレードなどで使用)

4. VIDEO MONITOR

コンポジット・アナログビデオモニター出力端子。(HDMI のないディスプレーなどでの映像モニターとして、メニュー画面などの確認用に使用できます)

5. SURROUND OUTPUT ONLY : 同軸
6. SURROUND OUTPUT ONLY : トスリンク

いずれも外部サラウンド・プロセッサーへの出力端子ですが(HD サラウンドには非対応ですので)あえてご使用はお勧めしません。

7. HDMI1
8. HDMI2

いずれもディスプレー(TV またはプロジェクター)に接続する HDMI 出力端子。
通常一台のみのディスプレーを使用する場合は HDMI1 に接続します。(HDMI1 端子からは Marvell QDEO ビデオプロセッサーによる高画質映像が出力します)

※本機は MSB 初期設定で両 HDMI 出力ともオーディオ出力は OFF としています。

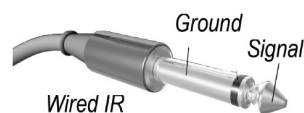
9. EXTERNAL 512X CLOCK IN OR OUT

DAC IVなど旧MSB DACとの間でマスタークロックの授受を行う際の端子です。 (クロックはサンプルレートx512の周波数)
この端子を入力とするか出力をするかの設定はリモコンでの特別な操作が必要です。(⇒12ページ)

10. USB1
11. USB2

USBメモリー、USBハードディスク、USBワイヤレスネットワーク端末(802.11b/g/n 2.4GHz)などを差し込んで音楽データ再生ができます。(フロントパネルのUSB端子も同様です)

12. IR IN

外部IRリモートセンサー(リモコン受光部の拡張ユニット)を接続する端子。
※接続するとフロント側のリモコン受光部は無効となります。
※MSB製の本機専用IRリモートセンサー以外のご使用は保証対象外となります。

13. MSB DIGITAL AUDIO OUTPUT (MSBデジタル出力:TOSLINK)

14. MSB DIGITAL AUDIO OUTPUT (MSBデジタル出力:同軸3系統)

※デフォルト設定では3系統ともフロント2chが同時に出力します。

※マルチチャンネル設定に変更するとサラウンドchなどが別個に出力します(右図)。
⇒設定方法は12ページ ［MSBアドバンスド・オーディオセットアップ ］を参照。

MultiChannel Mode Outputs

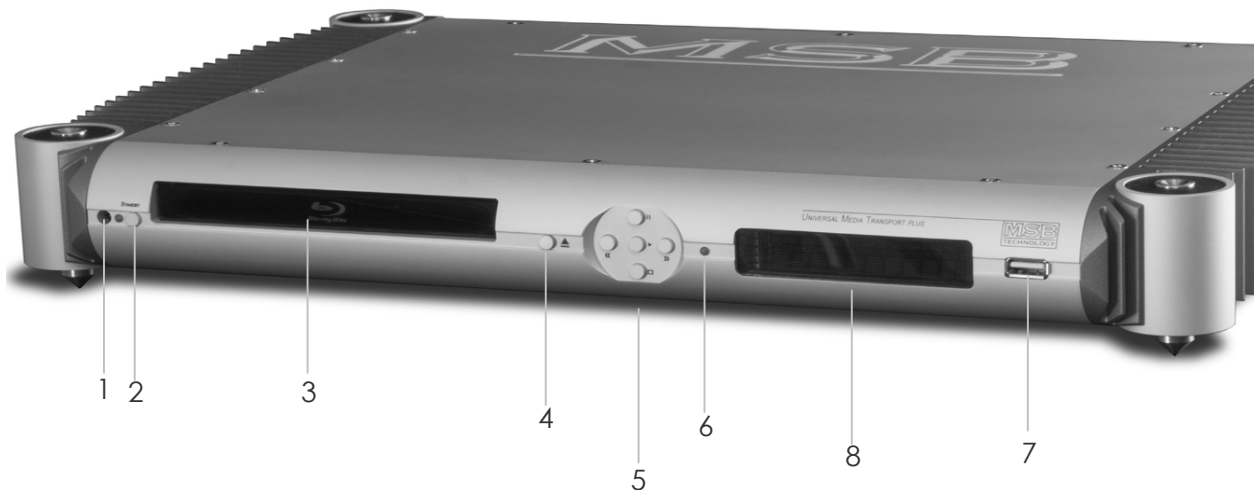
15. MSB DIGITAL AUDIO OUTPUT (MSBデジタル出力:AES/EBU)

※フロント2chのAES/EBUデジタルオーディオ出力です。

16. MSB DIGITAL AUDIO OUTPUT (MSBデジタル出力:MSB PRO I2S OUTPUT)

※フロント2chのMSB PRO I2Sデジタルオーディオ出力です。

MSB DAC に CAT6-LAN ケーブルで接続します。
※MSB PRO I2S とは、MSB DAC から超低ジッターのマスタークロックを本機に送り、それに完全同期して本機を動作させ超低ジッターでデジタルオーディオ信号を DAC に送る方式です。
送られるデジタルオーディオ信号は I2S フォーマットに準じて L/R データとワードクロック、ビットクロックを完全分離し、超高精度・超低ジッターを実現しています。またその出力は、MSB DAC に対して PCM192kHz32bit までのデータを、SACD の DSD 信号はネイティブのまま送られます。

フロントパネル各部と操作

1. リモコン受光部

2. STANDBY: スタンバイ/ON ボタン
押すとスタンバイとONの切替ができます。
※スタンバイ状態ではボタンの左側LEDは赤点灯。ON状態では緑点灯。

3. ディスク・トレー
ディスクをセットします。

4. ⏏ トレー オープン/クローズ ボタン
ディスクトレーを開け閉めします。

5. (上下左右)矢印 ボタン

« (**左ボタン**) / >>» (**右ボタン**) ：
ディスク再生中はトラックの<戻し>/<送り>。
ファイル再生時、BD,DVDメニュー設定時には左右方向の<ナビゲーション>ボタンとして機能します。

(**上ボタン**) / (**下ボタン**) ：
ディスク再生中は**II** (上ボタン)は<ポーズ>。□(下ボタン)は<ストップ>。
ファイル再生時、BD,DVDメニュー設定時には上下方向の<ナビゲーション>ボタンとして機能します。

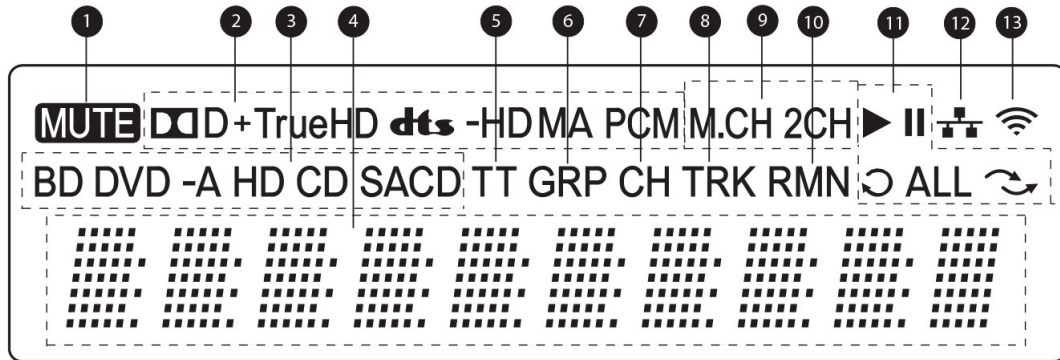
(**センターボタン**) ：
ディスク再生時は<**プレー**>。
ファイル再生時、BD,DVDメニュー設定時には<**エンター**>ボタンとして機能します。

6. PRO I2S インジケーターLED
緑で点灯している場合は、本機とMSB DACがPRO I2S接続で動作している状態を示します。

7. USB端子
USBメモリー、USBハードディスク、USBワイヤレスネットワーク端末(802.11b/g/n 2.4GHz) などを差し込んで音楽データ再生ができます。 (PCやiPodは使用できません)

8. ディスプレー

ディスク再生時の様々な情報を表示します。

(ファイル再生、ネットットワーク再生時の情報表示には外部ビデオディスプレーが必要です)

1. MUTE
オーディオ信号がミュートされている状態を表示。

2. 再生中のオーディオ信号の形式を表示。

3. 再生中のディスク形式を表示。

4. メインディスプレー: トラック、再生時間などを数字で表示。

5. TT: 再生時間表示がタイトルであることを示します。

6. GRP: 再生時間表示がグループであることを示します。

7. CH: 再生時間表示がチャプターであることを示します。

8. TRK: 再生時間表示がトラックであることを示します。

9. オーディオ・チャンネル表示: 再生が2chかマルチchかを示します。

10. RMN: 再生時間表示が残り時間であることを示します。

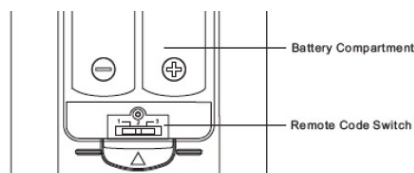
11. 再生モード表示: プレー、ポーズ、リピート、リピート・オール、ランダムなど、再生モードを示します。

12. イーサネット(LAN)接続されていることをを示します。

13. ワイヤレス・ネットワーク接続されていることをを示します。

リモコン

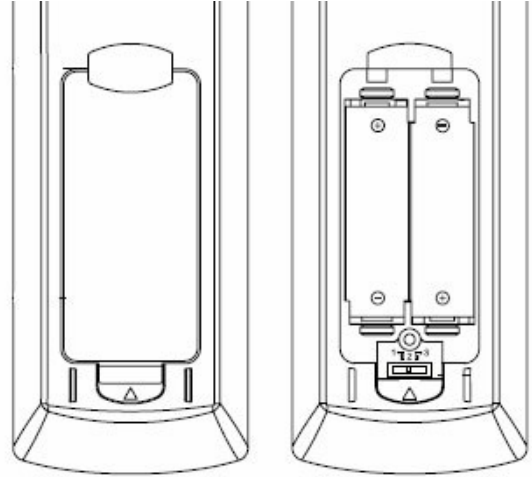
1. 電源(スタンバイ/ON)
3. ピュアオーディオ(映像 ON/OFF)
4. 数字ボタン
5. 数字インプット・クリア
6. トップメニュー(BD/DVD メニュー)
7. (上下左右)矢印ボタン、エンターボタン
8. オプション(メニューに関連付けられた項目)
9. カラーボタン
10. プレイ
11. ストップ
12. 早戻し
13. スキップ戻し
14. オーディオ言語
15. サブタイトル(字幕言語)
16. セットアップ(セットアップメニューを出す)
17. A-B リピート
18. ビデオ出力解像度
19. オープン/クローズ
20. 入力切替
22. ミュート(デジタル出力をミュート)
23. ボリューム -/+
24. HOME(ソースメディア選択画面)
25. PAGE Up/Down(ディスク・ステイタス
26. インフォメーション
27. GoTo(再生箇所の指定)
28. BD/DVD ポップアップメニュー表示
29. リターン(メニュー操作時一段階戻し)
30. 一時停止
31. 早送り
32. スキップ送り
33. 3D: 2D⇒3D 変換または 3D メニュー
34. ズーム
35. フロントパネルディスプレーの明るさ
36. リピート
37. リモコンボタン照明

●リモコン・コードの変更について: 本機のリモコンは、三通りの通信コードに設定が可能です。これは、リモコンが他の機器に反応したりする際に通信コードを変えることで干渉を避けるためのものです。設定変更は次の通りです。

・リモコンの電池カバーを外し、
下部にあるスライドスイッチをボールペンの先などで動かし、
"1" ,"2", "3"のいずれかにセットします。(初期設定は"1"です)
・次に、本体の電源 ON にし、ディスクトレーを開けます。
・リモコンを本体に向け、[ENTER]ボタンを 5 秒間押します。
これで設定されたコードで作動するようになります。
※本機特有のアドバンスドコマンドはコード 1 のみに有効です。

リモコンの電池装着

本機のリモート・コントローラーは、1.5V 単 3 電池 2 本を使用します。電池を、次の手順で装着してください。

●背面のバッテリーカバーを外します。
●バッテリー装着部の表示にしたがって、極性をまちがえないように電池を装着します。
●背面のカバーを元の通り取り付けます。

!ご注意
※リモートコントローラーによる操作ができなくなったら、上記の要領で電池を交換してください。
※長期間ご使用にならないときは、電池の液漏れを防止するため、電池を抜いてください。

⚠ 安全に関するご注意 リモコン用の電池の取扱について

下記のことは必ず守ってください。電池の使い方を間違えると電池が発熱、液もれや破裂したり、機器の故障やけがなどの原因となります。

●電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください。
●電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師と相談してください。
●分解、加熱、火に入れるなどしないでください。
●＋－を逆に入れないでください。
●＋－をショートさせたり、ネックレスなど金属製のものと一緒に携帯・保管しないでください。
●この電池は充電式ではないので、充電すると液漏れ、破損のおそれがあります。
●電池に直接はんだ付けしないでください。
●電池そのものや電池を入れたリモコンの置き場所は直射日光・高温・高湿の場所を避けてください。電池には化学物質が入っているので、暑さや湿気は禁物です。特に高温・高湿、直射日光のあたる場所での保管はさけましょう。寿命が短くなるばかりか、破裂・液漏れをおこす恐れがあります。
●電池のもれ液が漏れて目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やけがなどのおそれがあるのできれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受けてください。
●長期間ご使用にならない場合はリモコンから電池を外してください。また、使い切った電池は、すぐに機器から取りだしてください。
●電池の使用推奨期限：リモコンの働きが悪くなったりした場合や、また、通常は半年から一年を目安として交換されるようお勧めします。

MSB アドバンスド・オーディオセットアップ

本機はMSB DACとの組み合わせで最適なパフォーマンスが得られるよう、**MSBデジタル出力(TOSLINK, 同軸3系統, AES/EBU, MSB PRO I2S)**に対するオーディオモードが予めデフォルト設定としてセットアップされています。それらのセットアップ内容はリモコンの特別なボタン操作によって変更することが可能です。
変更が必要な場合には以下の手順で行なってください。

1. **DSDモード: MSBデジタル出力のデフォルト設定 = DSD(DoP)出力**

・DSDを**PCM変換**して出力するには、リモコンのボタンを次のように順に押します。
<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <5>　※<**ProI2Sインジケーター LED**>が赤色で2回フラッシュ

・**DSD(DoP)** (デフォルト)出力に戻すには
<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <4>　※<**ProI2Sインジケーター LED**>が赤色で1回フラッシュ

※但し、このDSDモード切替は、
Setup Menu > Audio Format Setup > **SACD Output メニューが**
< DSD > となっているときにのみ有効です。
(SACD Output メニューがAUTOやPCMになっているとこの設定を変えてもDSD出力になりません)

2. **デジタル出力チャンネル設定 ：MSBデジタル出力のデフォルト設定 = フロント2chモード**

・**マルチチャンネルモード**に変更するには、リモコンのボタンを次のように順に押します。
<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <6>　※<**ProI2Sインジケーター LED**>が赤色で3回フラッシュ

・**フロント2chモード**(デフォルト)に戻すには
<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <4>　※<**ProI2Sインジケーター LED**>が赤色で1回フラッシュ

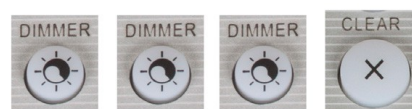
※但し、マルチチャンネルモード設定は、
Setup Menu > Audio Processing > **Speaker Configuration メニューが**
< 7.1ch > となっているときにのみ有効です。※各端子のチャンネル設定は7ページを参照

3. **クロックモード ： EXTERNAL 512X CLOCK IN OR OUT 端子のデフォルト設定 = IN**

・**OUT**に変更するには、リモコンのボタンを次のように順に押します。
<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <0>　※<**ProI2Sインジケーター LED**>が緑色で2回フラッシュ

・**IN**(デフォルト)に戻すには
<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <9>　※<**ProI2Sインジケーター LED**>が赤色で1回フラッシュ

[MSB アドバンスド・オーディオセットアップ/ファクトリーリセット]

上記の各種設定変更が混乱したときなど、必要に応じてMSB出荷時の初期設定(MSBファクトリー・リセット)に戻すことが可能です。
MSBファクトリーリセットを行なうには、
リモコンの**<DIMMER>ボタンを三回押し<CLEAR>ボタンを押します**。

(リセットが完了するまでには一分半程度の時間が掛かります。
また、その間は<**ProI2Sインジケーター LED**>が赤色で点滅します。
点滅が終ればリセットの完了です。)

※註: MSBファクトリーリセットは後述のセットアップ・メニューの中のファクトリーリセットとは異なります。
(MSBファクトリーリセットを行なってもセットアップメニューの各項目はリセットされません)

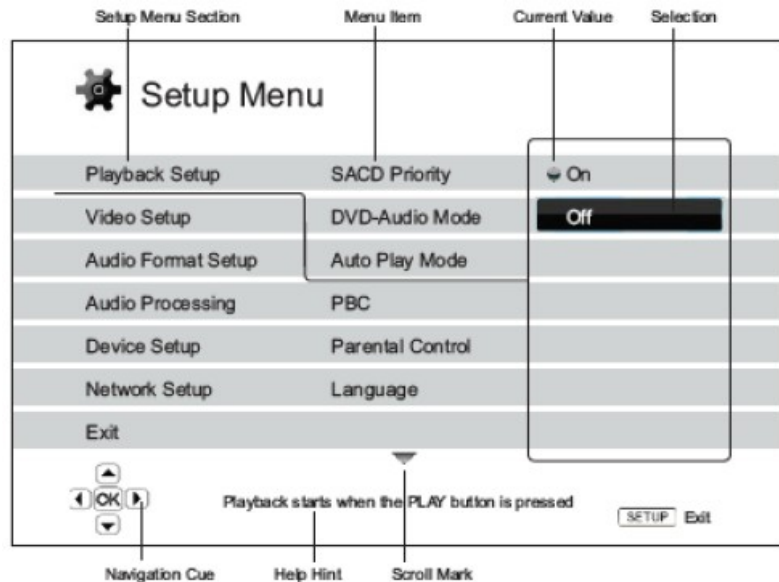
セットアップメニュー・オプション

[セットアップメニューのご使用について]

本機は通常使用時に特に支障が無いよう、出荷時に予めセットアップメニューがデフォルト設定されています。
セットアップメニューの確認は、リモコンの<SETUP>ボタンを押し、接続したディスプレー画面を見ながら行います。

メニュー項目は右図のように、
メニューセクション>メニューアイテム>選択項目となっています。

メニュー操作は、リモコンの上下左右方向ボタンで希望項目を選び、<エンター>ボタンを押して決定します。

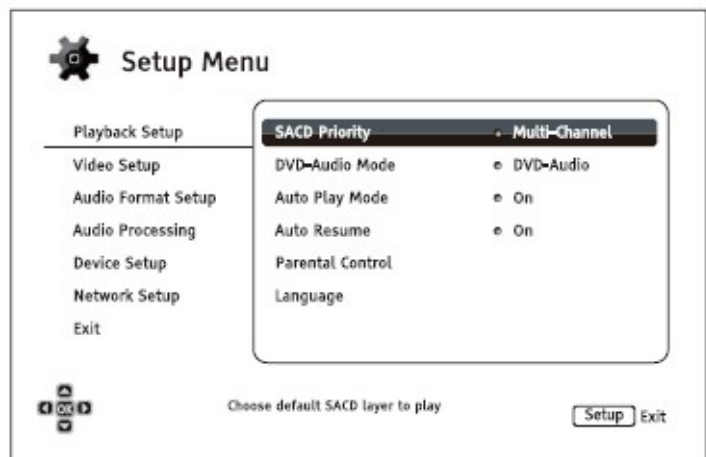
設定が終ったら、メニューセクションの<EXIT>を選び<エンター>を押すか、
または、リモコンの<SETUP>ボタンを押し、メニューを閉じます。

セットアップメニューをシステムに応じて変更する必要がある場合は以下の手順に従ってください。
※変更した設定は、本体またはリモコンの電源ボタンを押してスタンバイにした場合でも、保存されています。
但し、スタンバイモードになる前に AC 電源が切れ場合は保存されません。

[Playback Setup / プレイバック・セットアップ]

様々なコンテンツに対する再生モード設定。

1. SACD Priority / SACD オーディオレイヤー優先モード

全てのマルチチャンネル SACD には別に 2ch ステレオエリアも入っています。また、全てではありませんが、CD レイヤーが入っているものもあります。この設定は、SACD のどのエリアを再生するかを設定するものです。

・**Multi-Channel** (oppo 初期設定) ： マルチチャンネル・サラウンド・オーディオレイヤーを再生
・**Stereo (MSB 初期設定)** : 2ch ステレオ・オーディオレイヤーを再生
・**CD Mode**: ハイブリッド SACD の CD レイヤーを再生

2. DVD-Audio Mode / DVD オーディオモード

・**DVD-Audio** (oppo 初期設定) ： DVD-Audio ディスク本来のハイサンプリング高データレートの音を再生します。
・**DVD-Video** : DVD-Audio ディスクに別に入っている Dolby Digital や dts オーディオを再生します。

3. Auto Play Mode / オートプレイモード

CD,SACD に対する機能。
"On"にすると CD,SACD が BD,DVD と同じようにトレーに収納すると自動的に再生スタートします。

・**On** (oppo 初期設定)： ディスクを入れると PLAY ボタンを押さなくても自動的に再生をスタート
・**Off**： 通常の CD プレーヤーと同じように、[PLAY]ボタンを押してから再生をスタート。

4. Auto Resume / オートレジューム

CD,SACD,DVD,レジューム対応 BD に対する機能。
"On"にすると前回再生を終ったところから再び再生が始まります。

・**On** (oppo 初期設定)： 前回再生を終ったところから再生をスタート。
・**Off**： 始めから再生をスタート。

5. Power On Input / パワーオン時優先入力

電源オン時にどの入力を再生するかの設定。

・Blu-Ray (oppo 初期設定)： ブルーレイディスクを優先再生。
・**Last Input**： 電源を切る前に選んでいた入力を優先再生。

6. Parental Control / ペアレンタル(視聴制限)

BD,DVD には年齢などの視聴制限レベルが設定されているものがあります。
本機のレベルをディスクよりも小さく設定すれば、そうしたディスクの視聴を制限できます。
初期設定は制限を設けない"Off"になっています。
制限を有効にするには"Parental Control"にアクセスして、パスワードを入れます。出荷時のパスワードは 0-0-0-0 です。
その後、BD,DVD それぞれに制限年齢を設定します。

・BD Rating : [カーソル]上下ボタンで Off,1～21 の年齢数字を選択します。
・DVD Rating : [カーソル]上下ボタンで、
次の中から適切なレベルを選択します。
Kid： 幼児でも OK
G： 子供も OK
PG： 子供にとって不適切なシーン有り
PG13 : 13 歳以下の方にとって不適切なシーン有り
PGR : 17 歳以下の方にとって不適切なシーン有り
R : 17 歳未満の方は保護者同伴で視聴
NC17 : 17 歳未満は NG
Adult : 18 歳以下 NG

・Area Code : BD ディスクの中には地域によって異なる制限レベルを設定しているものもあります。しかし、本機では USA の設定レベルに基づいていますので、選択はできません。

・Change Password : 視聴制限の設定に入るためのパスワードを初期設定から変えて任意に設定することができます。

7. Language / 言語

・Player Language :
本機のオンスクリーン・メニューで表示する言語が選べます。

・Disc Menu Language :
ディスク・メニュー画面の表記が複数言語から選べる場合の設定です。

※メニューに表示された言語以外も"Other"項目に直接言語コードを入力して設定が可能です。⇒言語コード一覧は巻末をご覧ください。因みに**日本語コードは 7465** です。

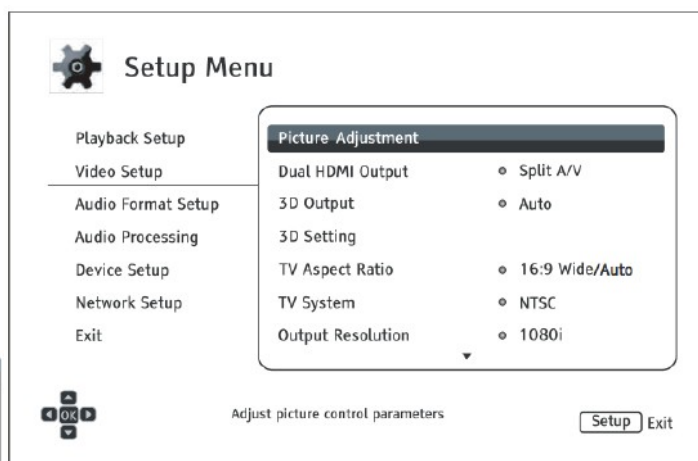
・Audio Language :
音声言語が複数から選べる場合の設定です。(※)

・Subtitle Language :
字幕言語が複数から選べる場合の設定です。(※)
"Auto"にすると、ディスクの設定に従います。

[Video Setup / ビデオ・セットアップ]

ビデオ出力の詳細設定です。本機では予め、HDMI 接続したプロジェクターを使用した場合での最適値にプリセットしていますが、必要に応じて設定変更が可能です。

1. Picture Adjustment / 映像調整

Video Setup > Picture Adjustment > エンター で下記の画面が出ます。

左右矢印ボタンで設定したいビデオ出力(HDMI1 またはHDMI2)を選びエンターボタンを押すとメニューが現れます。(HDMI1 と HDMI2 とではメニュー項目が若干異なります)

・Picture Mode : Mode1,2,3 の三通りのパターンでそれぞれ設定を保存できます。
・Brightness : 輝度(黒レベル)
・Contrast : コントラスト(白レベル)
・Hue(Analog) : 色相(色合い)
・Saturation : 彩度(色濃度)
・Sharpness : シャープネス(映像の輪郭鮮度)
・Noise Reduction : ビデオノイズ軽減

(以下、HDMI1 のみ)
・Color Enhancement : 彩度を拡張するレベルの設定。スペクトラム中の特定の色を拡張し、屋外シーンなどで色相・肌色の変化やディテールの損失を招くことなく鮮やかな色彩を得ることが可能です。、

・Contrast Enhancement : コントラストを拡張するレベルの設定。影の部分のディテールが向上します。

HDMI 1			
Picture Mode	◀ Mode 1 ▶		
Brightness	0	-16	+16
Contrast	0	-16	+16
Hue	0	-16	+16
Saturation	0	-16	+16
Sharpness	0	-16	+16
Noise Reduction	0	0	+8
Color Enhancement	0	0	+4
Contrast Enhancement	0	0	+4
Exit			

Picture Adjustment Menu for HDMI 1

HDMI 2			
Picture Mode	◀ Mode 1 ▶		
Brightness	0	-16	+16
Contrast	0	-16	+16
Hue	0	-16	+16
Saturation	0	-16	+16
Sharpness	0	0	+2
Noise Reduction	0	0	+3
Exit			

Picture Adjustment Menu for HDMI 2

以上各メニューの数値を設定するには、
上下矢印ボタンでメニュー項目を選び**エンターボタン**を押し、**左右矢印ボタン**で数値を決め、**エンターボタン**でそれを確定させます。

2. Dual HDMI Output / デュアル HDMI 出力

HDMI 出力端子が二つとも使用されている場合の出力モードの設定。(HDMI 出力端子が一つしか使用されていない場合はこの設定は適用されません)

・**Split A/V** (oppo 初期設定) : HDMI1 にビデオ信号、HDMI2 にオーディオ信号、と振り分けます。
・**Dual Display** : HDMI1,HDMI2 ともに等しくオーディオ/ビデオ信号を送り出します。(但し、サラウンドサウンドはステレオにダウンミックスされて出力します)

※註:
・本機の HDMI から出力されるデジタルオーディオとビデオ信号は、接続されたレシーバーやディスプレーが対応している必要がありますが、それに応じた最適解像度となるよう自動調整される機能を持っています。
・HDMI1 のビデオ出力は、(ソースダイレクト・モードにしない限り)高画質を誇る QDEO ビデオプロセッサーが使用されます。
・Split A/V モードでは、HDMI1 からはビデオ信号のみが出力します。一方 HDMI2 からは、オーディオ信号に加えて HDMI オーディオに必要なブランク・ビデオ信号も含まれています。

3. 3D Output / 3D 出力

3D コンテンツの出力モードの設定。

・**Auto** (oppo 初期設定) : ディスプレーが 3D 対応の場合、3D ディスクコンテンツの再生時に 3D 出力します。3D 非対応のディスプレーでは 3D コンテンツも 2D 出力となります。
・**Off** : 3D コンテンツも 2D として出力します。
・**Forced** : 3D ブルーレイ・ディスクに対しては常に 3D ビデオ・フォーマットで出力させます。ディスプレーが 3D 非対応の場合、黒い画面が表示されることがあります。

4. 3D Setting / 3D セッティング

3D 再生の品位を調整。

・Blank HDMI2(Yes/No) : Yes にすると、HDMI1 から 3D ビデオ出力しているとき、HDMI2 から強制的にブランク・ビデオ信号を出力させます。(これは、HDMI2 の出力を 3D 非対応のレシーバー経由で 3D 対応ディスプレーに接続する際、レシーバーからディスプレーにオーディオ信号が送られない問題を解消する機能です)
・2D>3D Depth : シミュレーテッド 3D (2D コンテンツを 3D 変換する機能)を使う際、3D の奥行き感を調整します。初期設定は 8。
・3D TV Size : 3D HDTV の画面サイズを指定します。リモコンの数字ボタンで数値を入力しエンター・ボタンで確定します。初期設定は 46 インチ。

5. TV Aspect Ratio / アスペクト比

映像出力のアスペクト比(縦横比)を設定します。

・**16:9 Wide** : 16:9 のディスプレーを使用する場合、16:9 のワイド映像はオリジナル・アスペクト比そのままで映します。4:3 映像は左右に引き伸ばしてディスプレーいっぱいに映します。(左右のボーダーは無くなりますがオリジナル映像のアスペクト比が左右に膨らみます)

・**16:9 Wide Auto** (oppo 初期設定) : 16:9 のディスプレーを使用する場合、ワイド映像はオリジナル・アスペクト比そのままで映します。また、4:3 映像は左右にボーダーを入れて、オリジナル映像のアスペクト比そのままで映します。

Original Content	TV Screen Appearance 16:9	
	Wide	Wide/Auto
4:3		
16:9		

6. TV System / テレビ・ビデオ規格

世界のテレビ・ビデオ規格は NTSC と PAL に二分されています。NTSC は北アメリカと日本、PAL はヨーロッパと日本を除くアジア、オーストラリア、南アメリカ、アフリカで適用されています。
本機はいずれにも対応できます。ご使用のディスプレーの規格に合わせて設定します。(初期設定は NTSC)

・**NTSC** (oppo 初期設定) : NTSC ディスクはそのままの規格でビデオ出力します(規格変換は行ないません)。PAL ディスクは NTSC 変換して出力します。
また、フレームレート 24Hz の BD ディスクは、「1080p24 Output」か「Source Direct」設定にしていない限り、60Hz に変換して出力します。

・**PAL** : PAL ディスクはそのままの規格でビデオ出力します(規格変換は行ないません)。NTSC ディスクは PAL 変換して出力します。
また、フレームレート 24Hz の BD ディスクは、「1080p24 Output」か「Source Direct」設定にしていない限り、50Hz に変換して出力します。

・**Multi-system** : ディスクの規格と同一規格で本機からビデオ出力します(規格変換は行ないません)。NTSC ディスクは NTSC 対応ディスプレーで、また、PAL ディスクは PAL 対応ディスプレーでご覧になれます。
また、フレームレート 24Hz の BD ディスクは、「1080p24 Output」か「Source Direct」設定にしていない限り、60Hz に変換して出力します。

※ご使用のディスプレーが NTSC/PAL 両対応であれば、"Multi-system"設定としてください。NTSC、PAL いずれも変換しないでオリジナル本来の画質でご覧になれます。

7. Output Resolution / ビデオ出力解像度

本機はさまざまな解像度でのビデオ出力の設定が可能です。
最も良好な画質を得るためには、この設定を、ディスプレーの「素の解像度」に合わせてやることが肝要です。

・**Auto** (oppo 初期設定) では、ディスプレーの解像度に合わせて最適な解像度でビデオ出力します。

8. 1080p24 Output / 1080p24 出力

1080p 解像度(のみ)の出力時のオプション設定です。
映画のブルーレイ・ディスクの多くは元のフィルムと同じ一秒間 24Hz コマ(フレーム)でエンコードされています。ディスプレーが 1080p 24Hz 対応であれば、そのままのレートでビデオ出力するのがベストです。

・**Auto** (oppo 初期設定) : 24Hz コマ(フレーム)でエンコードされたディスク再生時には、ディスプレーがそれに対応し、それを本機が認識した場合には 1080p 24Hz で出力します。

・**ON** : 24Hz コマ(フレーム)でエンコードされたディスク再生時には、ディスプレーがそれに対応しているかいないかを問わず常にそのレートで出力します。この設定では、ディスプレーが対応していてもそれを本機に認識させることができない場合に有効です。しかし、ディスプレーが対応していない場合は何も映らなくなってしまいます。

・**Off** : 24Hz コマ(フレーム)でエンコードされたディスク再生時でも、60Hz(NTSC)または 50Hz(PAL)に変換して主力します。

9. DVD 24p Conversion / DVD 24p 変換
前記 1080p24Output を Auto または ON にした場合に有効な機能です。

フィルム映像を収録した多くの DVD ではビデオ規格に合致させるため、2-3 プルダウンと称する処理を行なって 24 コマの映像を 30 フレーム(60Hz=60 フィールド)に変換しています。
本機の DVD24p 変換機能は、その 60Hz を元のフィルムと同じ 24 フレームに戻し 1080p24Hz で出力させ、映画フィルムと同じクォリティーで再生することを可能にします。
・**On**： DVD を 24Hz 変換します。
・**Off** (oppo 初期設定)： 変換しません。
※DVD でもフィルム作品でなくビデオ作品の場合、この DVD24Hz 変換機能を使うとノイズが出たり正常に再生されません。DVD ビデオ再生時には Off にしてください。

10. 4Kx2K Output :

・**Auto** (oppo 初期設定) ： ディスプレーが 4Kx2K 対応の場合、4Kx2K で出力します。非対応のディスプレーでは通常出力となります。
・**Forced** ： 4Kx2K コンテンツに対しては常に 4Kx2K で出力させます。ディスプレーが非対応の場合、黒い画面が表示されることがあります。

10. HDMI Options / HDMI オプション
HDMI 映像出力に関する設定です。

1. Color Space(HDMI1) : HDMI1 のカラースペース(色の表現範囲)を設定します。

・**Auto** (oppo 初期設定) ： 本機とプロジェクターなど接続したディスプレーが相互に認証し合い、最適なカラースペースで出力させます。通常はこの設定にしてください。
ディスプレーのカラースペースが確定している場合は、次の固定モードから選ぶこともできます。
・RGB Video Level : ビデオ表示に適切な RGB のカラースペースを使用します。
・RGB PC Level : PC モニターとしての DVI 入力を持つディスプレーでコントラストが低下する場合に使用します。
・YCbCr 4:4:4
・YCbCr 4:4:2

2. Color Space(HDMI2) : HDMI2 のカラースペースを設定します。
・メニューは HDMI1 と同様です。

3. HDMI Deep Color(HDMI1) : HDMI1 のディープカラー・モードの設定です。
「ディープカラー」は最新のディスプレーに備わっている高密度な色深度の再現に対応するモードで、設定したレートで色深度を拡張して出力します。通常は 24bit(8bit x 色チャンネル数)ですが、ディープカラー対応ディスプレーに合わせて次のモードが適用できます。 もし、ディスプレーが 36bit 対応でない場合は、ディザ処理モードを選択したほうがスムーズな色深度が得られます。※ディープカラー非対応のディスプレーで本機脳を使うと、効果が出ないか、または映像が出ないことがあります。
・36 Bits : 36 ビット/ピクセルのディープカラー
・30 Bits(Dithered) : 色信号にディザ処理をかけた 30 ビット/ピクセルのディープカラー
・30 Bits : 30 ビット/ピクセルのディープカラー
・Off (Dithered) : ディープカラー不使用、但し、色信号にディザ処理をかける
・**Off** (oppo 初期設定) : ディープカラー不使用

4. HDMI Deep Color(HDMI2) : HDMI2 のディープカラー・モードの設定です。
・メニューは HDMI Deep Color(HDMI1)と同様です。

5. De-interlacing Mode ：DVD などインターレース映像をプログレッシブ変換する際のアルゴリズム(モード)の選択です。ソースによって最適なモードを次の中から選択が可能です。
・**Auto** (oppo 初期設定) ： 映像ソースのタイプを検知して自動的に最適なモードに切り替えます。通常はこの設定にしてください。
・Film : フィルム・ソースのモード検知力を高めます。
・Video ： ビデオ・ソースの再生に適しています。(フィ ルムモードをオフにします)

11. Display Options / ディスプレー･オプション

ディスプレーの表示に関する各種設定です。

1. Subtitle Shift (サブタイトル･シフト) : 字幕の表示位置の調節です。
標準位置 0 = (oppo 初期設定)に対して上下+10～-10 の範囲で設定可能。

2. OSD Position : OSD(時間/トラック/チャプター情報などのオンスクリーンディスプレー)の表示位置の調節です。標準位置 0= (oppo 初期設定) に対して 0～+5 の範囲で設定可能。

3. OSD Mode : OSD(PAUSE,STOP,SKIP などの再生操作アイコンのオンスクリーン表示)の表示時間設定。

･Normal (oppo 初期設定): 表示した OSD はキャンセルするまで表示。
･Minimal : OSD 表示の後、数秒間で消えます。
･Remaining : 表示した OSD はキャンセルするまで表示。但し、経過時間表示は再生時間ではなく残時間。

4. Angle Mark : マルチアングル対応ディスク再生時にディスプレーに表示されるアングルマークの ON/OFF です。 Off = (oppo 初期設定)

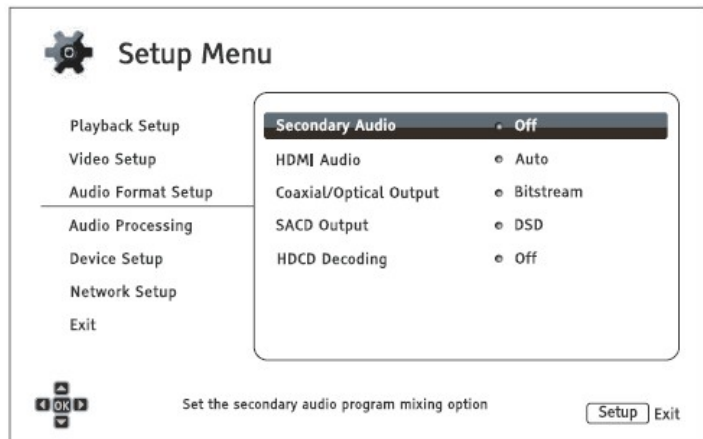
5. Screen Saver : 再生停止時にスクリーンセーバーを表示させるかどうかの設定です。

･On (oppo 初期設定) : 再生停止 3 分後から oppo ロゴがスクリーン上を動くスクリーンセーバーが表示されます。CRT、プラズマなどのディスプレーのバーンインに有効です。
･Off: スクリーンセーバーを表示しません。
･**Energy Saver MSB 初期設定** : 再生停止3分後からビデオ出力を遮断します。本機の本体またはリモコンのどれかボタンを押すとこのモードは解除され、ビデオ出力が復帰します。もし、Energy Saver の起動に伴ってご使用のプロジェクターなどのディスプレーがスリープモードまたはスタンバイモードに入っていた場合は、動作状態に戻す必要があります。

[Audio Format Setup / オーディオフォーマット・セットアップ]

オーディオ出力の詳細設定です。本機では予め、MSB DAC との組み合わせで使用した場合での最適値にプリセット(**MSB 初期設定**の表記)していますか必要に応じて設定変更も可能です。

1. Secondary Audio / 副音声

BD(ブルーレイ・ディスク)の中には、ディレクター のコメントやメニューサウンドなどの SAP(Secondary Audio Program=副音声)が入ったものがあります
本機能は、それを主音声にミキシングするかどうかの設定です。
・On： 副音声を主音声にミキシングする
・**Off** (oppo 初期設定)：ミキシングしない

2. HDMI Audio / HDMI 音声フォーマット
HDMI オーディオ出力に対する機能。

・Auto (oppo 初期設定)： サラウンドサウンド・プロセッサーが許容する最適な音声フォーマットで HDMI からデジタル音声を出力。
・LPCM：リニア PCM で HDMI からデジタル音声を出力。
・Bitstream：DolbyTrueHD, dts-HD, Master Audio, DSD など、ディスクの音声フォーマットのままで HDMI からデジタル音声を出力。
・**Off (MSB 初期設定)**：HDMI からは映像のみ出力し、デジタル音声は出力しません。

※HDMI を使用してオーディオ信号をサラウンドアンプに接続した場合での HD オーディオソースの高解像度を維持するためには、720p 以上のビデオ出力解像度に設定することが肝要です。(HDMI の規格上、480p など低い解像度設定では高解像度オーディオ信号のすべてが正しく伝送されないことがあります)

3. Coaxial/Optical Output
同軸<5. SURROUND OUTPUT ONLY – 同軸> と光<6. SURROUND OUTPUT ONLY – トスリンク>のデジタルオーディオ出力の形式と上限を設定します。
・48k LPCM：48kHz レートで 2ch に強制ダウンミックスされたリニア PCM が出ます。
・96k LPCM：96kHz レートで 2ch に強制ダウンミックスされたリニア PCM が出ます。
・192k LPCM：192kHz レートで 2ch に強制ダウンミックスされたリニア PCM が出ます。
・Bitstream (oppo 初期設定))：ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネル・ビットストリームを出力。

4. SACD Output / SACD 出力(デコード形式)
SACD 再生時の HDMI オーディオ出力と MSB デジタル出力の形式設定。

・Auto (oppo 初期設定)：HDMI 接続したサラウンドプロセッサーが DSD 再生に対応している場合には DSD を出力し、そうでない場合には、DSD を PCM 変換して出力します。
・PCM：SACD の DSD 信号を PCM 変換して出力します。(※MSB DAC は DSD をそのまま受け入れますのでこの設定はしないでください。)
・**DSD (MSB 初期設定)**：SACD の DSD 信号をそのまま出力します。(※但し HDMI では HDMI2 のみ)

5. HDCD Decoding / HDCD デコーディング
HDCD ディスクの再生に関わる機能

・On：HDCD を正しくデコードして出力します。しかし、MSB DAC との組み合わせでは推奨されません。
・**Off** (oppo 初期設定)：HDCD をデコードしません。しかし、MSB DAC との組み合わせでは HDCD 回路をバイパスすることでより良い結果が得られます。またこの設定でも、HDMI 接続したサラウンドプロセッサーが HDMI デコード機能を持っていればそこで正しくデコードされます。

[Audio Processing/オーディオプロセッシング]

このオーディオプロセッシングは、**MSB デジタル出力(TOSLINK, 同軸 3 系統, AES/EBU, MSB PRO I2S)**に対するオーディオモードの設定です。
※Dynamic Range Control (DRC)を以外のこれら設定は HDMI オーディオ出力、SURROUND OUTPUT (同軸/トスリンク)には関与しません。

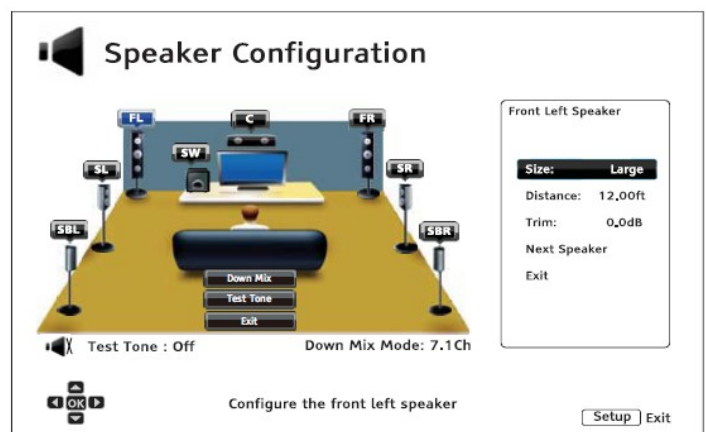
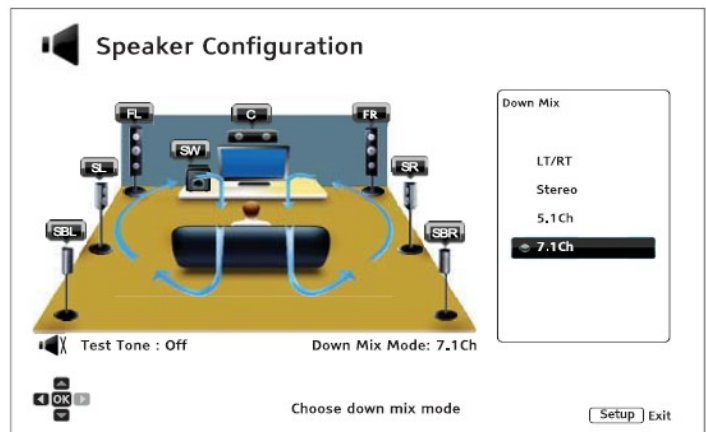
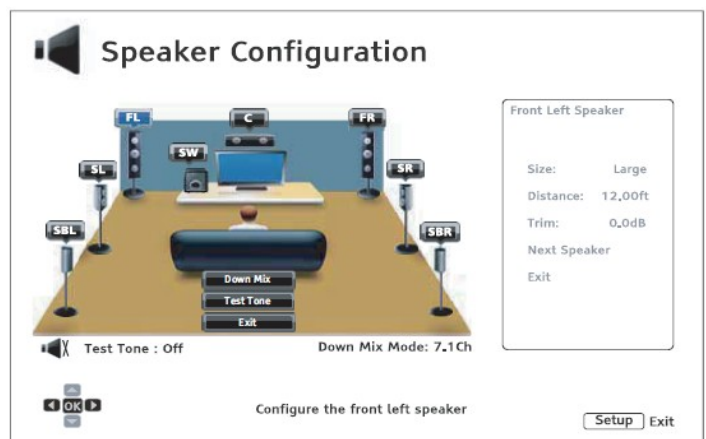
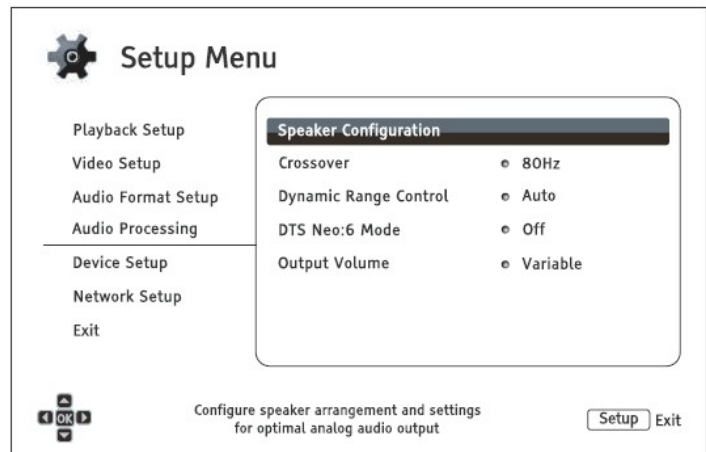
※MSB デジタル出力をマルチチャンネルモードに設定して、マルチチャンネルソースを振り分けてデジタル出力する際の各チャンネルの推奨詳細設定です。(MSB デジタル出力 4 系統で 7.1ch 再生を行なうためには 2chDAC が 4 台必要です。
7.1ch を各 MSB デジタル出力のチャンネル設定は 7 ページを参照)

1. Speaker Configuration
ダウンミックス・モード、スピーカーの数、距離、サイズ、トリムレベルなど、使用するスピーカーの設定です。

※左右矢印ボタンで設定する選択するスピーカー表示を移動させ、Down Mix の位置にきたら、上下矢印ボタンで Test Tone, Exit を選択できます。

MSB DAC との組み合わせで最適なパフォーマンスを得るための重要な設定項目は以下の通りです。
MSB 初期設定
・Down Mix(ダウンミックス) : 7.1ch
・Size(サイズ) : 全スピーカーLarge

以下は使用するシステムに応じて適正に設定してください。

・Distance(距離) : 適宜
・Trim(トリム) : 個別チャンネルの音量を適宜設定。

2. Crossover(クロスオーバー)
スピーカーサイズが Small 設定のとき、ベースマネージメントによってサブウーファーに低域を振り分ける際のクロスオーバー周波数の設定です。(Large 設定では機能しません)

3. Dynamic Range Control (DRC) :
音のダイナミックレンジ(強弱の幅)をコントロールします。On では、音の強弱が圧縮され(深夜などボリュームを上げられないときに)聴きやすくします。しかし、オリジナルの音声のバランスは崩れますので、通常は初期設定の Off にしてください。

・Auto : Dolby TrueHD オーディオエンコードされた一部のブルーレイディスクの場合そのディスクで指定されたダイナミックレンジで再生します。
・On : 全ての DVD とブルーレイディスクに対してダイナミックレンジを狭め小音量時でも聴き取り易くします。
・Off **MSB 初期設定** : DRC を無効にし本来のダイナミックレンジで再生します。

4. DTS Neo:6 Mode
CD,DVD,BD などのあらゆる 2ch 音源を、マトリックス・プロセッシング処理により 7.1ch 化する DTS Neo:6 モードに於ける処理モードの選択です。

・Music : 音楽ソースに最適なモード。
・Chinema : 映画ソースに最適なモード。
・Off (oppo 初期設定) : DTS Neo:6 処理をせず元のオーディオ信号を保ちます。

5. Output Volume
リモコンの Volume 調整を有効にするかどうかの設定ですが、本機のデジタル出力には関与しません。通常は Fixed にセットしておいてください。

・Variable : リモコンの Volume 調整を有効にします。
・Fixed : リモコンの Volume 調整を無効にします。

6. Power On Volume
上記 Variable モードの設定で、電源を入れたときにセットされる Volume レベル設定です。本機のデジタル出力には関与しません。

・Last : 電源を切る前にセットされていた Volume レベルを保ちます。
・40 : 電源を切る前にセットされていた Volume レベルとは無関係に 40 のレベルでセットされます。本機のデジタル出力には関与しません。

7. Maximum Volume
Volume コントロールできる最大レベルを制限します。本機のデジタル出力には関与しません。

・0 – 100 までの任意のレベルをリモコンの Volume ボタンを使ってセットします。

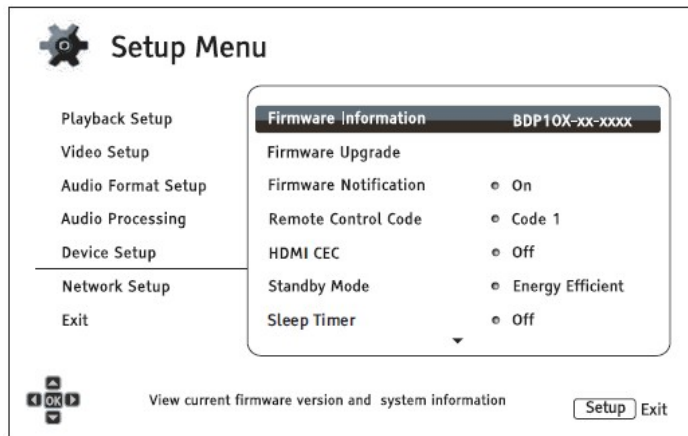
8. A/V Sync
映像と音のタイミングが一致しないときに調整します。

・-100ms〜+200ms の間で音の遅れ/進みを調整します。0ms=(oppo 初期設定)

[Device Setup/デバイスセットアップ]

関連するハードウェアや制御機能に関する各種設定です。

1. Firmware Information :
本機にインストールされている現在の(oppo)ファームウェアのバージョンを表示します。

2. (oppo) Firmware Upgrade ： 本機のoppo プレーヤー部のファンクション/フィーチャーを司るファームウェアのアップグレードがあった時にユーザーがご自身でアップグレードを行うことができる機能です。

アップグレードの方法は次の三通りがあります。
(再生を完全に停止するかディスクがセットされていない状態でのみ操作が可能です)

・**Via USB**： アップグレード・ファームウェアのファイルを oppo ウェブサイト(www.oppodigital.com)からコンピューターにダウンロードし USB メモリーに入れたものを使って行ないます。(ウェブサイトのファームウェア・ダウンロード・ページの説明に従ってください)

・**Via Disc**： アップグレード・ファームウェアのファイルを oppo ウェブサイト(www.oppodigital.com)からコンピューターにダウンロードし CD ROM などのディスクにに入れたものを使って行ないます。(ウェブサイトのファームウェア・ダウンロード・ページの説明に従ってください)

・**Via Network** ： 本機のイーサネット端子が、インターネットにつながっているネットワークへ接続されている場合、直接インターネット経由でのアップグレードが可能です。(ディスプレーに表示される説明に従ってください)

2-2 (MSB) Firmware Upgrade :
上記の(oppo) Firmware Upgradeとは別に、本機の MSB デジタルオーディオ・プロセッシングサーキットのファームウェアのアップグレードがあった時にユーザーがご自身でアップグレードを行うことができる機能です。

このアップグレードは Setup Menu とは別に、次の二通りのいずれかの手順で行ないます。
(再生を完全に停止するかディスクがセットされていない状態でのみ操作が可能です)

・**Via USB**： アップグレード・ファームウェアのファイルを MSB ウェブサイト(www.msbtech.com)からコンピューターにダウンロードし USB メモリーに入れたものを使って行ないます。(ウェブサイトのファームウェア・ダウンロード・ページの説明に従ってください)

・**Via Disc**： アップグレード・ファームウェアのファイルを MSB ウェブサイト(www. www.msbtech.com)からコンピューターにダウンロードし CD ROM などのディスクにに入れたものを使って行ないます。(ウェブサイトのファームウェア・ダウンロード・ページの説明に従ってください)

3. (oppo) Firmware Notification :
ファームウェアのアップグレードの有無をチェックする機能の ON/OFF です。

・**On** (oppo 初期設定): ファームウェアのアップグレードの有無をチェックし通知します。※但し、イーサネット端子がインターネットにつながっているネットワークに接続されている必要があります。
・Off： ファームウェアのアップグレードの有無をチェックしません。

4. Remote Control Code :
本機のリモコン送受信コードは 4 種類の設定が可能です。
初期設定はリモコン/本体とも"Code1"となっています。
リモコンが他の機器に反応してしまう場合などに、このコードをリモコン/本体ともに変更することができます。

・ **Code1** (初期設定) : 通常のコード設定です。
・ **Code2**
・ **Code3**
・ **Alt. Code** : A/V アンプやディスプレーに付属のユニヴァーサル/学習リモコンなどに対応します。そのリモコンの DVD 操作ボタンに東芝やフィリップス、Magnavox、マランツ、Zenith などのコードでプログラムすれば本機を操作可能になります。いくつかのコードで試して働くコードを見つけてください。

※本体のこのリモコン・コード設定を変えた場合は、リモコン側もそれに対応したコード変更が必要です。
⇒「10 ページ: リモコン・コードの変更について」をご参照ください。

5. HDMI CEC :
HDMI CEC(HDMI Consumer Electronics Control)とは、
HDMI 接続した機器間で、リモートコントロール機能を共有したり、電源 ON/OFF やスイッチングに連動した再生スタートといった自動セットアップ機能などを働かせることを可能とする HDMI 規格のオプション機能です。

・ **HDMI1** : HDMI CEC が HDMI1 出力で有効。本機と HDMI 接続する機器がプレーヤー対応の場合に機能。
・ **HDMI1 Limited** : HDMI CEC が HDMI1 出力で有効ですが、本機は再生コマンドにのみ反応(電源 ON/OFF の連動はしません)。

・ **HDMI2** : HDMI CEC が HDMI2 出力で有効。本機と HDMI 接続する機器がプレーヤー対応の場合に機能。
・ **HDMI2 Limited** : HDMI CEC が HDMI2 出力で有効ですが、本機は再生コマンドにのみ反応(電源 ON/OFF の連動はしません)。

・ **Off** (oppo 初期設定: HDMI CEC 機能は非作動。

6. Standby Mode :
スタンバイ時のモードによって消費電力が変わります。

・**Energy Efficient** (oppo 初期設定: スタンバイ時の消費電力は最小となりますが、起動に若干時間がかかります。
・**Quick Start :** スタンバイ時の消費電力は増加しますが、起動が早くなります。

7. Sleep Timer :
自動的に電源をスタンバイにするまでの時間設定です。

・ **Off** (oppo 初期設定: 自動的に電源をスタンバイにしません。
・ **30/45/60/90/120 Min**(分) : 自動的に電源をスタンバイにするまでの時間を選びます。上下矢印ボタンで選びエンターボタンで確定します。

8. Front Panel Brightness :
フロントパネル・ディスプレーの輝度を 3 段階で設定できます。

・ **Standard** (oppo 初期設定: 最大輝度。
・ **Dim** : 輝度を下げます・
・ **Off** : 消灯。(ボタン操作時には一瞬点灯)

9. Cache Media Info :
オンライン・メディアファイル情報をキャッシュするかどうかの設定。

・ **On** (oppo 初期設定: ダウンロードされたメディアファイル情報が接続した USB メモリーのディレクトリーの中のホルダーに保存され、ブラウズを素早くします。
・ **Off** : 保存しません。ブラウズが遅くなることがあります。

10. Persistent Storage
"Persistent strage"とは BD コンテンツのボーナスビューや BD Live フィーチャーの付加情報を本体にキープし、電源を切っても記憶をとどめておくことができる機能です。その記憶媒体は次の選択肢から選べます。

・ **Strage Device** :
 ・ **Internal Flash**(初期設定) – 本体に内蔵されているフラッシュメモリーに記憶。
 ・ **USB Drive** – 外付けの USB メモリー(1GB 以上)に記憶。(USB ハードディスクは推奨されません)

※新たに選択したストレージデバイスを有効とするには設定後一旦電源を切り再起動してください。

・ **Space Used** : 記憶媒体の使用量を表示

・ **Erase Persistent Storage :** 記憶媒体のデータを消去します。

11. Netflix :
映像配信サービス Netflix のアカウント認証を解除します。

・ Netflix ESN : -本機の NetflixESN(電子シリアルナンバー)を表示。
・ De-active Netflix : Netflix のアカウント認証を解除します。

12. VUDU :
映像配信サービス VUDU のアカウント認証を解除します。

13. Setting Management :
Setup Menu で設定変更した内容を USB メモリーにバックアップします。

・Backup Settings: バックアップします。
・Restore Setting : バックアップされた設定を呼び出します。

(oppo) Reset Factory Defaults / oppo ファクトリー・リセット

Setup Menu のこの項目は、Setup Menu で変更したあらゆる設定を初期設定に戻します。
(この操作は、再生を完全に停止するかディスクがセットされていない状態でのみ可能です)
リセットの種類には次の二通りがあります。

・**Erase Account and Setting**： 全ての設定を oppo オリジナルの初期設定に戻します。(アプリケーション認証、Netflix、VUDU などのアカウント情報も削除します。)
・**Erase Setting** ： 全ての設定を oppo オリジナルの初期設定に戻します。(アプリケーション認証、Netflix、VUDU などのアカウント情報は保持されます。)

・**Returen**： リセットを行ないません。

※本機の初期設定では、特に MSB DAC との組み合わせで最適な効果が得られるよう、以下の項目設定が重要です。ファクトリー・リセットの後に確認し、もし異なっていたら、次のように再設定してください。

1. Playback Setup > SACD Priority > STEREO
2. Audio Format Setup > HDMI Audio > OFF
3. Audio Format Setup > SACD Output > DSD
4. Audio Processing > Speaker Configulatio > 7.1ch & Size=All Large
5. Audio Processing > Dynamic Range Control > Off

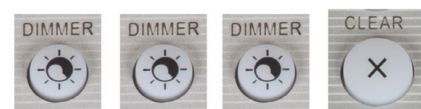
次の項目は特に重要ではありませんが、やはり MSB 独自の設定としています。
1. Video Setup > Display Option > Screen Saver > **Energy Saver**

(MSB) Reset Factory Defaults / MSB ファクトリー・リセット

本機は MSB DAC との組み合わせで最適なパフォーマンスが得られるよう、**MSB デジタル出力(TOSLINK, 同軸 3 系統, AES/EBU, MSB PRO I2S)**に対するオーディオモードが MSB アドバンスド・オーディオセットアップとして、下記のように予めセットアップされています。

1. DSD モード: MSB デジタル出力のデフォルト設定 = DSD(DoP)出力
2. デジタル出力チャンネル設定 ：MSB デジタル出力のデフォルト設定 = フロント 2ch モード
3. クロックモード ： EXTERNAL 512X CLOCK IN OR OUT 端子のデフォルト設定 = IN

これらのセットアップ内容はリモコンの特別なボタン操作によって変更することが可能です。⇒12 ページ
設定変更を行った後で、元に戻したいときには次のようにして MSB ファクトリーリセットを行なうことができます。

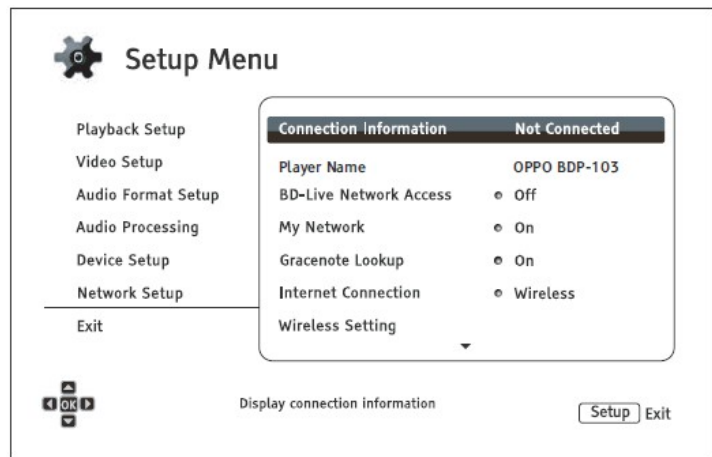
リモコンの**<DIMMER>ボタンを三回押し<CLEAR>ボタンを押します**。

(リセットが完了するまでには一分半程度の時間が掛かります。
また、その間は**<ProI2S インジケーターLED>**が赤色で点滅します。
点滅が終ればリセットの完了です。)

※註: MSB ファクトリーリセットは前記の oppo ファクトリーリセットとは異なります。
(MSB ファクトリーリセットを行なってもセットアップメニューの各項目はリセットされません)

[Network Setup/ネットワークセットアップ]

本機のネットワーク接続設定、接続テスト、BD-Live のアクセス制限などの設定を行なうことができます。

1. Connection Information :
接続種類、IP アドレスなど、インターネットへの接続情報を表示します。

2. Player Name :
ローカルネットワークで表示される本機の識別名です。名前の変更はエンターボタンを押し、ソフトキーボードを起動し入力します。最大 12 文字の入力が可能です。

3. BD-Live Network Access :
BD-Live コンテンツへのアクセス設定です。

・ On – BD-Live へのアクセスを許可します。
・ Limited – BD-Live へのアクセスはコンテツン所有者の証明のあるものに限られ、証明のないコンテンツへのアクセスは遮断します。
・ On(初期設定) – BD-Live にアクセスしません。

4. My Network :
家庭内メディア共有がなされているローカルネットワーク内で本機をクライアントとするかどうかの設定です。

・On (oppo 初期設定): 本機をクライアントとし、オーディオ、ビデオ、写真など、ローカルネットワーク内の PC や NAS などのメディアサーバーからのストリーム再生が可能となります。※ネットワーク構成とハード/ソフトの適正な設定が必要です。再生が可能なサーバーは Home Menu の Network オプションから選びます。
・Off : ネットワーク・ストリーム再生を無効とします。

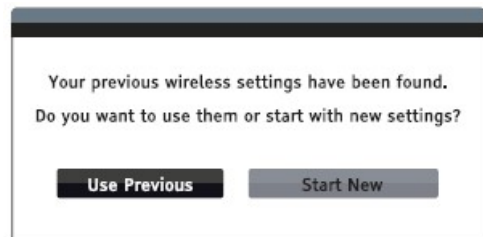
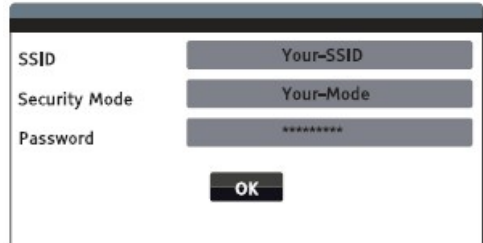
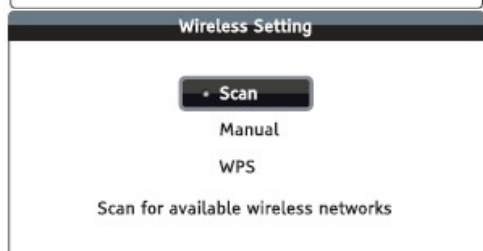
5. Gracenote Lookup :
インターネットの Gracenote オンラインデータベース・サービスを使用して、ディスクタイトル、ジャンル、発売(制作)年、アーティスト、カバー・アートなどのメディア追加情報へのアクセスを可能とします。

・On (oppo 初期設定): Gracenote オンラインデータベース・サービスを有効にします。※インターネット接続が必要です。
・Off : 無効にします。

6. Internet Connection :
インターネット接続の方法を選択します。

・Ethenet (oppo 初期設定): イーサネット(LAN)ケーブルでブロードバンドルーター(またはモデム)に接続。
・Wireless : 専用のワイヤレスアダプターを USB 端子に差し込んで無線 LAN で接続。
・Off : 接続しません。

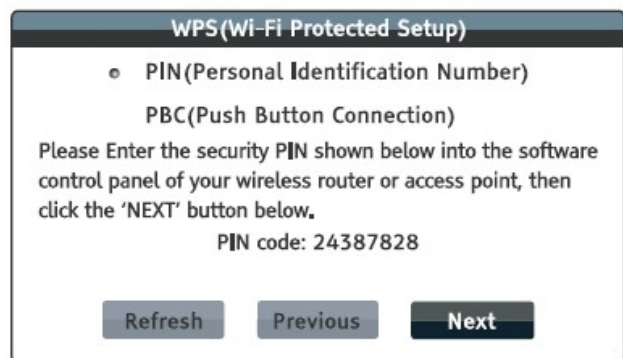
7. Wirelesss Seting :
Wireless Setup Assistant を起動しワイヤレス接続の適正な設定を行ないます。

・本機で正常動作した一番最近の無線設定を検索します。検索に成功するとメッセージが表示されます。

・Use Previous : 正常動作した一番最近の無線設定を使用します。SSID(ネットワーク名)、セキュリティーモード、セキュリティーキー(パスワード)など、以前使用した接続概要が表示されます。

・Start New : 無線接続の構成を新規作成します。
以下の通り、三つの方法があります。

・Scan : 利用可能な無線ネットワークをスキャンします。上下矢印ボタンでネットワークを選びエンターボタンで選択確定します。必要に応じてセキュリティーキーを入力します。

・Manual : 無線ネットワーク情報を手動入力します。
リモコンで SSID とセキュリティーキーを入力します。

・WPS : WiFi プロテクテッドセットアップに対応した無線 LAN ルーターで簡単・安全な構築が可能です。

選択肢は次の二通りです。

・PIN : -本機が PIN コードを生成しますので、無線 LAN ルーターの PC でのコントロールパネルでそれを入力します、
・PBC : 無線 LAN ルーターの PBC ボタン押してオンスクリーンの指示に従います。

8. IP Setting :
本機の IP アドレス取得方法を設定します。

・Auto(DHCP) (oppo 初期設定: DHCP を使用して IP アドレスを自動で取得します。
・Manual : ルーターが DHCP 機能を持っていない場合、IP アドレスなどを手動入力します。
IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS など、設定値の詳細はご使用のルーターのマニュアルに準じてください。

9. Proxy Setting :
プロキシサーバー経由でないとインターネット接続できない場合に On にします。
(oppo 初期設定 = Off

10. Connecting Test :
インターネットに正しく接続されているかどうかのテストができます。

基本操作

[ディスク再生]

BD DVD DVD-A SACD CD

1. [**1. 電源(スタンバイ/ON)** ボタン] を押し、電源を入れます。
2. [**19. オープン/クローズボタン**] を押し、トレーを開けます。
3. レーベル面が上になるようにディスクをトレーに置きます。
4. 再度[**19. オープン/クローズボタン**] を押し、トレーを閉めます。
5. プレーヤーがディスク情報を読み込み、再生を始めます。
6. ディスクの内容によってはメニューや案内画面が表示されることがあります。
[**7. (上下左右)矢印ボタン、ENTER** ボタン] で再生するコンテンツを選びます。
7. 再生を終えるには[**11. ストップボタン**] を押します。
8. 電源を切るときは、[**1. 電源(スタンバイ/ON)** ボタン]を押します。

[オプションメニュー]

1 ディスクやメディアファイルの選択時あるいは再生時に、リモコンの[**8. OPTION** ボタン]を押すと、各種設定や再生機能の選択ができるオプションメニューが表示されます。
2. [**7. (上下左右)矢印ボタン、ENTER**ボタン]で希望項目の設定をします。

コンテンツによってオプションメニューの表示項目は異なります。
以下、各コンテンツのオプションメニュー項目の詳細です。

●CD,DVD,BDの再生中
・Disc Info : オンラインデータベース"Gracenote"を検索してディスク情報を表示します。※本機がインターネット接続されていることが必要です。

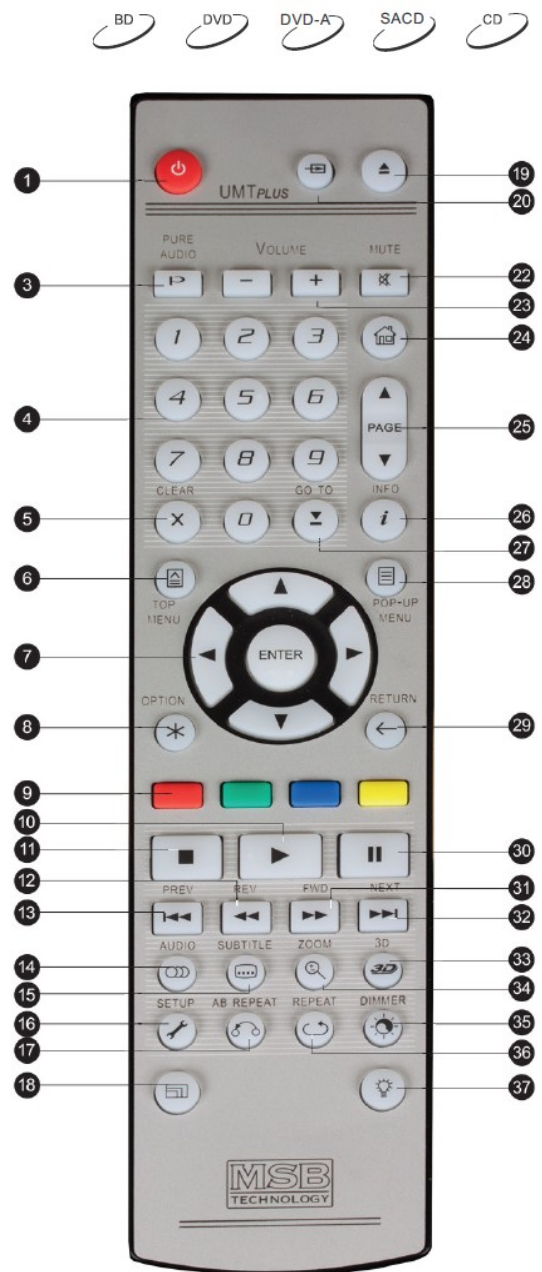
●音楽ファイルの再生中
・Music Info : オンラインデータベース"Gracenote"を検索して音楽ファイル情報を表示します。※本機がインターネット接続されていることが必要です。

●ビデオディスク(DVD,BD)やビデオファイルの再生中
・Subtitle : 字幕表示位置の調整
・Picture Adjustment : 映像調整メニューを表示
・Zoom : ズーム倍率メニューを表示
・Angle : 複数アングルの映像が記録されているDVD,BDの表示アングル切替

●写真ファイルの再生中
・Zoom : 拡大率の切替
・Rotate : 画像を回転

●HDMI入力の再生中
・Picture Adjustment : 映像調整メニューを表示

[早送り/早戻し再生]

BD DVD DVD-A SACD CD

1. [**FWD** ボタン]を押すと早送り再生を始めます。ボタンを押す度に次の順序で速度が変わります。

▶ ➡ ▶▶1 ➡ ▶▶2 ➡ ▶▶3 ➡ ▶▶4 ➡ ▶▶5

2. [**REV** ボタン]を押すと早戻し再生を始めます。ボタンを押す度に次の順序で速度が変わります。

▶ ➡ ◀◀1 ➡ ◀◀2 ➡ ◀◀3 ➡ ◀◀4 ➡ ◀◀5 ➡ ▶▶5

※いずれの場合も、通常再生に戻すには[**PLAY** ボタン]を押します。
※BD-Java テクノロジーを使ったブルーレイディスクには、独自の早送り/早戻し再生をするものがあり、再生速度が異なったり、独自の再生位置表示をすることがあります。

[一時停止とコマ送り/戻し]

BD DVD DVD-A SACD CD

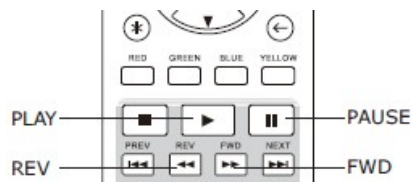
1. [**PAUSE** ボタン]を押して再生を一時停止させます。
2. 一時停止中に[**13. PREV** ボタン] や [**32. NEXT** ボタン] を押すと、コマ戻しやコマ送りができます。
3. [**PLAY** ボタン] を押すと通常再生に戻ります。

[スロー再生]

BD DVD

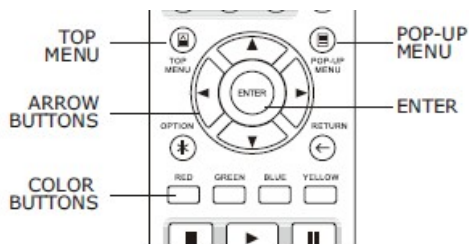
1. [**PAUSE** ボタン]を押して再生を一時停止させます。
2. [**FWD** ボタン]を押すとスロー再生を始めます。ボタンを押す度に次の順序で速度が変わります。

3. [**REV** ボタン]を押すとスロー戻し再生を始めます。ボタンを押す度に次の順序で速度が変わります。

4. [**PLAY** ボタン] を押すと通常再生に戻ります。

※BD-Java テクノロジーを使ったブルーレイディスクには、スロー再生に対応しないものもあります。

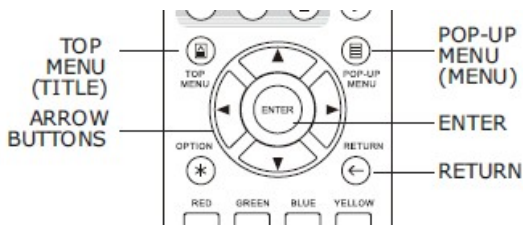
[ブルーレイディスク・メニュー再生]

1. ブルーレイディスクは通常「トップメニュー」や「ポップアップメニュー」を持っています。

・トップメニューは、再生の始めに予告編や著作権などのメッセージに続いて表示されます。また、再生中にも[**TOP MENU** ボタン] を押すと再生を中断して表示します。
・ポップアップメニューは、再生中に[**POP-UP MENU** ボタン] を押すことで表示することができます。

2. [**ARROW(上下左右矢印)ボタン]** でメニューを移動し、**[ENTER** ボタン] で選択します。
3. メニューの中には[**COLOR**(カラー)ボタン] を使って選択するものもあります。希望のボタンを押してください。

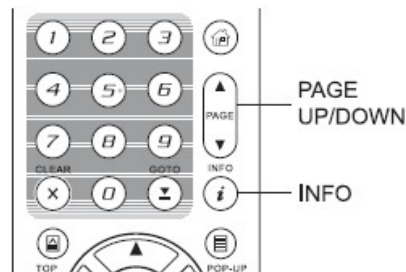
[DVD メニュー再生]

1. DVD の中には「タイトルメニュー」や「チャプターメニュー」を持っているものがあります。

・タイトルメニューは、再生中に[**TOP MENU** ボタン] を押すと再生を中断して表示します。
・チャプターメニューは、再生中に[**POP-UP MENU** ボタン] を押すことで表示することができます。

2. [**ARROW(上下左右矢印)ボタン]** でメニューを移動し、**[ENTER** ボタン] で選択します。
3. [**RETURN** ボタン]を押すと直前のメニューに戻ります。戻り先のメニューはディスクによって異なります。

[オンスクリーン・ディスプレー]

1. 再生中に[**INFO** ボタン]を押すと、再生情報が表示されます。
※CD、SACD では再生情報は自動的に表示されます。

2. 表示中に[**PAGE UP/DOWN** ボタン]を押すと表示内容が切り替わります。再生時間の表示切替はオンスクリーンと同時にフロントパネル・ディスプレーの表示も同期します。
3. もう一度[**INFO** ボタン]を押すと、表示が消えます。
※フロントパネル・ディスプレーの再生時間表示はそのまま維持されます。

●表示時間の内訳は次の通りです。
<DVD,BD>

- タイトル経過時間
– - タイトル残り時間
- チャプター経過時間
– - チャプター経過時間

<CD,SACD>

- トラック経過時間
– - トラック残り時間

- ディスク経過時間
– - ディスク残り時間

●オンスクリーン・ディスプレーは、その他再生コンテンツに関する以下の情報を含むことがあります。
- ・再生状態 ： 再生、一時停止、早送り/早戻しなどを示すアイコン
- ・ビットレート・メーター ： オーディオやビデオのビットストリーム・レート
- ・再生中のタイトルとタイトル総数(DVD,BD)
- ・再生中のチャプターとチャプター総数(DVD,BD)
- ・再生中のトラックとトラック総数(CD,SACD)
- ・オーディオ情報 ： 再生中のオーディオトラックと再生可能なトラック総数、言語、フォーマット、チャンネル数
- ・字幕情報 ： 再生中の字幕言語と再生可能な字幕言語
- ・ビデオフォーマット情報 ： エンコードタイプ、フレームレート、オリジナル・アスペクト比
- ・HDMI 出力情報 ： 接続状態、ビデオ解像度、フレームレート、カラースペース、オーディオフォーマットと ch 数

[ボリュームコントロール]

本機リモコンの[**VOL – / VOL +** ボタン]はボリュームコントロール機能付 MSB DAC のボリュームコントロールが行なえます。

VOL - VOL +

※リモコンを MSB DAC に向けて操作してください。
※本機のセットアップメニュー・オプションで[Audio Processing > Output Volume > Variable] の設定のとき、リモコンを本機に向けて操作すると本機のボリューム表示は変わりますが、デジタル出力のレベルは変化しません。
※本機能はリモコン・コードが"1"の時にのみ有効です。(リモコン・コード設定⇒10 ページ参照)

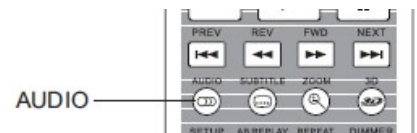
[ミュート]

BD DVD DVD-A SACD CD

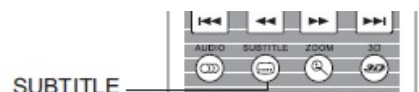
1. [**MUTE** ボタン]を押すと本機のデジタル出力がミュート(消音)されます。
2. もう一度押すとミュートが解除します。

[オーディオ言語の選択]

BD DVD DVD-A SACD

1. [**AUDIO** ボタン]を押すと再生可能なオーディオ言語が表示されます。
2. [**AUDIO** ボタン]を繰り返し押すか、[**ARROW(上下矢印)ボタン]** で言語を選びます。

※DVD の中にはディスクメニューからでしか言語を選べず、このボタンでは操作できないものもあります。
※SACD では、マルチ ch、2ch の切替がこのボタンでできます。

[字幕の選択]

1. 字幕が収録された DVD,BD その他のビデオプログラムでは、[**SUBTITLE** ボタン] で字幕言語を選択できます。
2. [**SUBTITLE** ボタン] を繰り返し押すか、[**ARROW(上下矢印)ボタン]** で字幕言語を選びます。
3. 字幕を閉じるには、字幕メニューの中の **Off** を選びます。

[ARC (オーディオ・リターン・チャンネル)の選択]

ARC とは、HDMI1.4 規格に準じた ARC 対応 HDMI 入力を持つ TV と本機を HDMI1.4:ケーブルで接続した場合にのみ働く機能で、TV のデジタルオーディオを HDMI に乗せて本機に送り返し、本機を経由して外部 DAC で高品位な再生をするためのものです

1. [**20. 入力切替**ボタン]を押し、Input ソースを表示します。
2. [**ARROW(上下矢印)ボタン]** で希望の ARC 入力を選びます。
3. BLU-RAY PLAYER を選ぶと本機のホームメニューに戻ります。

※本機能を使うときは、TV 側の ARC 機能を有効にする必要があります。

Input
BLU-RAY PLAYER
HDMI/MHL IN-FRONT
HDMI IN-BACK
● ARC: HDMI OUT 1
ARC: HDMI OUT 2

[BD-Live]

・BD Live - BD-Live は、Blu-ray Disc の拡張機能で、インターネットを通じて追加映像や追加字幕などの追加コンテンツを取り込んだり、ゲームなどのインタラクティブなコンテンツを再生するための仕様です。

※本機がインターネット接続されていることが必要です。また、セットアップメニュー・オプションで[Network Setup > BD-Live Network Access > On or Limited]の設定が必要です。

ご利用のためには、BD-Live 対応のブルーレイディスクを再生し、ディスク・メニューの BD-Live ボタンから案内に従って行なってください。

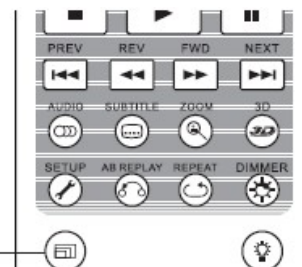
※BD-Live を使用するとプレーヤーやディスクの ID や IP アドレスがコンテンツ・プロバイダーに送信されることがあります。通常は個人を特定する情報は送信されませんが、プロバイダーは IP アドレスの使用者を把握しています。また、BD-Live のコンテンツ・プロバイダーがメンバーアカウントでのログイン情報を要求した場合、プロバイダーはメンバーやアカウント情報へのアクセスが可能となります。個人情報の取扱に関しては、インターネット・プロバイダーや BD-Live コンテンツ・プロバイダーに問い合わせてください。

※本機能はセットアップメニュー・オプションで[Network Setup > BD-Live Network Access > Off] の設定をすれば無効となります。

高度な操作

[ビデオ出力解像度]

本機は HDMI に於いて、さまざまな解像度でのビテオ出力の
設定が可能です。
最も良好な画質を得るためには、この設定を、ディスプレーの
「素の解像度」に合わせてやることが肝要です。

・ビデオ出力解像度はセットアップメニュー・オプションの
[Video Setup > Output Resolution] からも設定できま
すが、リモコンの RESOLUTION ボタンで簡単に切替が可能です。

・次の解像度が選択可能です。

NTSC output:

4Kx2K → Auto → 1080p(60Hz/24Hz) → 1080i 60Hz→ 720p 60Hz → 480p → 480i → Source Direct

PAL output:

4Kx2K → Auto → 1080p(50Hz/24Hz) → 1080i 50Hz → 720p 50Hz → 576p → 576i → Source Direct

[**ARROW(上下矢印)ボタン**] と、[**ENTER** ボタン] で設定します。
Auto では、ディスプレーの最良解像度に自動的に合わせます(通常は初期設定のままこの設定で構いません)。

※HDMI 接続した TV、ディスプレーが、対応していない解像度に間違えて設定をすると、何も映らなくなることがあります。
その場合、HDMI 接続を外し、VIDEO MONITOR 端子からコンポジット接続で繋ぎセットアップメニューを表示して設定を変えてください。

・Source Direct では、コンテンツのネイティブな解像度/フォーマットで出力します。(外部ビデオプロセッサーを使用する場合か、高度なビデオ処理が可能なハイエンド・プロジェクターなどを使用する場合のモードです)
因みに、各コンテンツのネイティブ解像度は次の通りです。

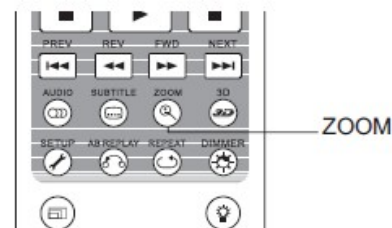
Content	Source Direct Output Resolution
NTSC DVD	480i
PAL DVD	576i
Most Blu-ray Movies (film-source)	1080p 23.976Hz or 1080p 24Hz
Most Blu-ray TV shows or Concerts (video-source)	1080i
SACD and DVD-Audio	1080p

[ズーム&アスペクト比の設定]

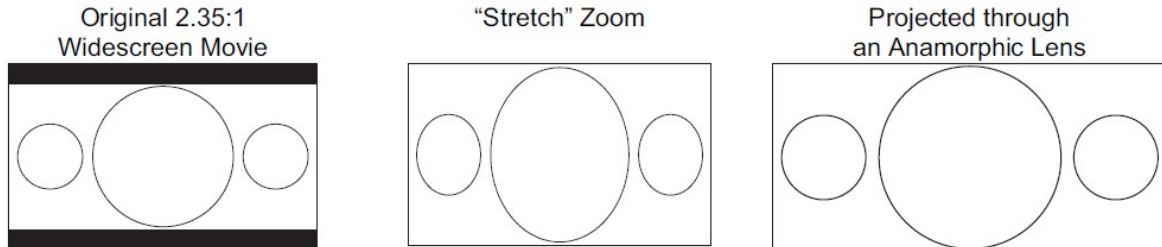
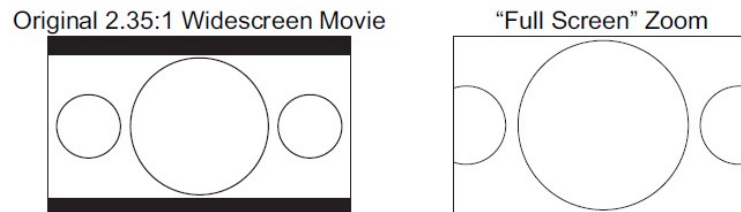
[ZOOM ボタン]を押す度に、映像の拡大/縮小、及びアスペクト比(縦横比)
の変更ができます。

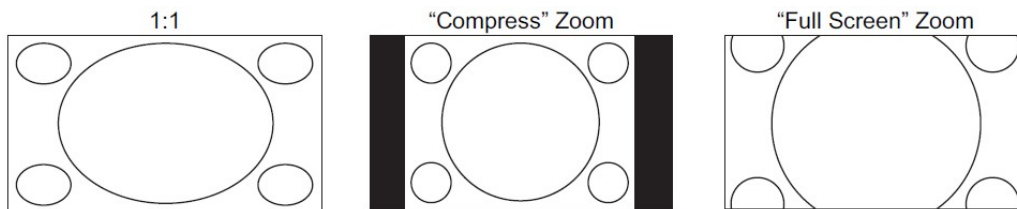
セットアップメニューの[Video Setup > TV Aspect Ratio]設定の違いと、
ディスクにエンコードされた縦横比によって選択可能な拡大率が変わりま
す。

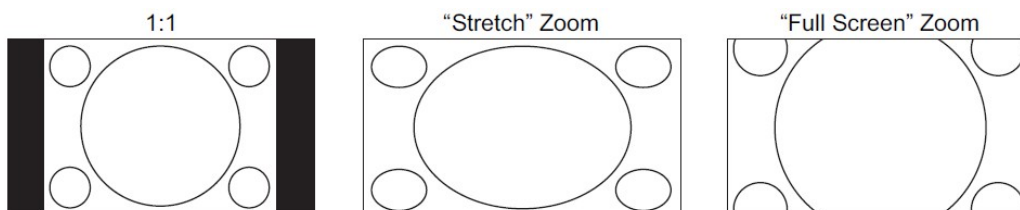
1:1 (No zoom), Stretch/Compress, Full Screen, Under Scan, 1.2X, 1.3X, 1.5X, 2X, 1/2X

ディスクを取り出すか電源を切ると 1:1(No zoom)に戻ります。

以下、HDMI 出力に於けるそれぞれの場合の効果を示します。

1) TV Aspect Ratio=16:9 Wide or 16:9 Wide/Auto の場合で 16:9 の BD,DVD を再生する場合:

・**Stretch -** 縦に 1.33 倍拡大されます。縦横比が 2.35:1 の映画で上下の黒をなくすことができます。アナモルフィックレンズを装着したプロジェクターでこのモードが有用です。

・**Full Screen** - 縦横ともに 1.33 倍拡大されます。縦横比が 2.35:1 の映画で縦横比を保持したまま上下の黒をなくすことができます。但し、左右は少し切り取られます。

2) TV Aspect Ratio=16:9 Wide の場合で 4:3 の BD,DVD を再生する場合:

・**1:1** – 映像は 16:9 のスクリーン全体に表示されますが、横に伸張されます。
・**Compress** – 4:3 の縦横比は保持されますが、左右に黒が出ます。
・**Full Screen** - 4:3 の縦横比は保持されますが上下が少し切り取られます。

2) TV Aspect Ratio=16:9 Wide/Auto の場合で 4:3 の BD,DVD を再生する場合:

・**1:1** – 4:3 の縦横比は保持されますが、左右に黒が出ます。
・**Stretch** –横に 1.33 倍拡大されます。映像は 16:9 のスクリーン全体に表示されますが、横に伸張されます。
・**Full Screen** - 4:3 の縦横比は保持されますが上下が少し切り取られます。

※**Under Scan** は映像全体を5%縮小します。TVのオーバースキャンによる表示の欠けを無くせます。
その他の倍率はそれぞれ数字の示す通りです

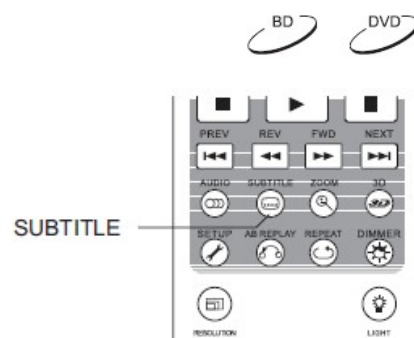
※1997年から2000年台初めまでに制作されたDVDには4:3の映像が16:9のスクリーンでは四方に黒が出て小さく表示されるものがありますが、その場合は、Full Screenモードが有用です。
※制作者の意図により、ZOOM機能が使えないDVD,BDがあります。

[字幕のシフト]

BD DVD

2.35:1の"Constant Image Height"と称するプロジェクターで投影したときに字幕が枠外に出て欠けてしまうことがあります。
本機能は、そうしたときに、字幕の表示位置をシフトすることができます。

SUBTITLE

1. 字幕が記録されたDVD.BD,その他のビデオプログラムの再生状態で、ディスクメニューやリモコンのコマンドで字幕を選択し表示します。
2. 画面に"**Shift Subtitle Position**"の表示が出るまで、リモコンの[**SUBTITLE**ボタン] を押し続けます。
3. [**ARROW(上下矢印)ボタン**] で位置を調節し、[**ENTER** ボタン] で確定させます。

※ここで調節した位置情報はセットアップメニューの[Video Setup > Display Option > Subtitle Shift]に値として設定され、これ以降再生するDVD,BDの字幕全てに適用されます。

[リピート再生]

BD DVD DVD-A SACD CD

特定のチャプター、タイトル、トラック、ディスク全体などをリピート(繰り返し)再生する機能です。

・[**REPEAT**ボタン] を押す度に次のようにリピートモードが切り替わります。

DVD,DVD-Audio :

BD :

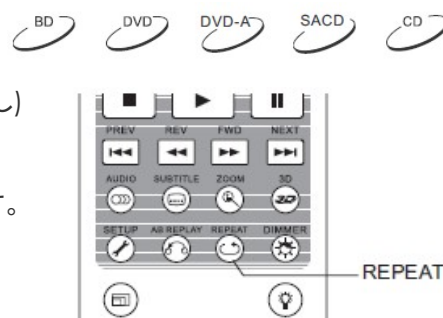
Repeat Chapter ➡ Repeat Title ➡ Repeat Off

※BDの中にはリピート再生ができないものもあります。

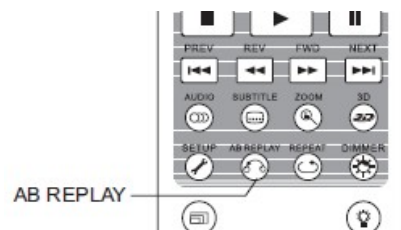
CD,SACD :

Repeat One ➡ Repeat All ➡ Repeat Off

[A-B リピート再生]

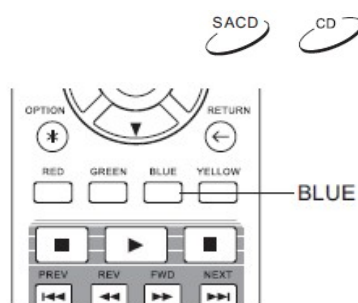
BD DVD DVD-A SACD CD

任意に指定したA,B間をリピート再生する機能です。

1. 通常再生中に、リピートを開始する箇所で[**AB REPEAT**ボタン]を押します。画面に「**A-**」の表示が出ます。
2. リピートを終了する箇所でもう一度[**AB REPEAT**ボタン]を押します。画面に「**A-B**」の表示が出ます。

AB REPLAY

※A-Bリピートを終え通常再生に戻るには、もう一度[**AB REPEAT**ボタン]を押します。
※ディスクフォーマットやコンテンツによっては対応しないものがあります。また、BDの中にはリピート再生ができないものもあります。

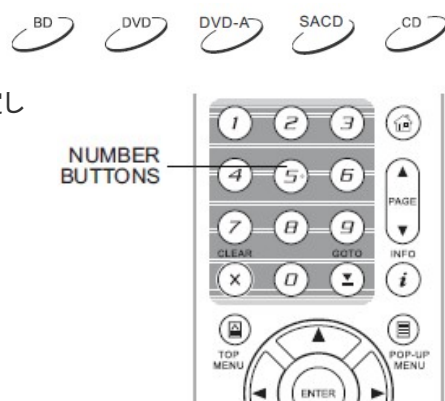
[シャッフル、ランダム再生]

CD,SACDの再生で、ディスクのトラック順が勝手に順不同に入れ替わり、ランダムに再生することができます。シャッフルモードでは各トラックは一度しか再生されません。

・リモコンの[青のカラーボタン] を押す度に次のようにモードが変わります。

※リピート再生中にこのモードを起動させるとリピート指定はキャンセルされます。逆も同様です。

[チャプター、トラック番号の指定再生]

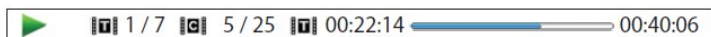
ディスク再生中にリモコンの[数字ボタン] でチャプターやトラックを指定して直接ジャンプすることができます。
例えば、
・7トラックを選択するには[7] を押します。
・16トラックを選択するには[1] と[6] を続けて押します。

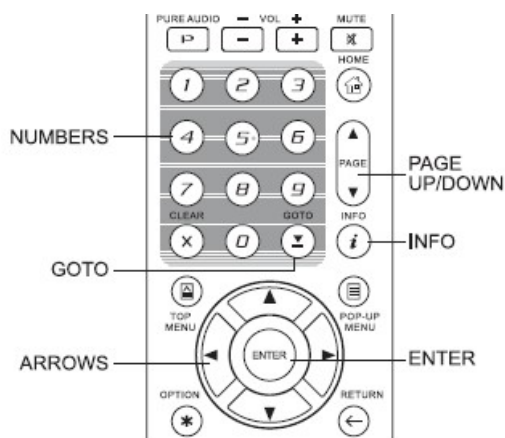
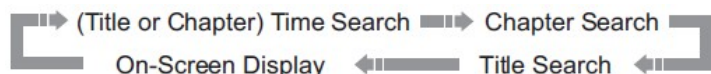
※DVD-A, BDの中にはチャプターを直接選べないものもあります。

[指定箇所からの再生]

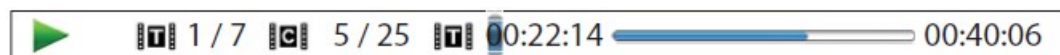
●DVD,BD の場合

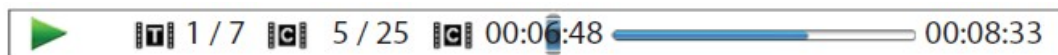
DVD,BDディスク再生中に、タイトル、チャプターや時間を直接指定して再生することができます。

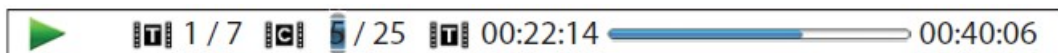
[**GOTO**ボタン] を押すと、次のようなオンスクリーン表示が現れます。

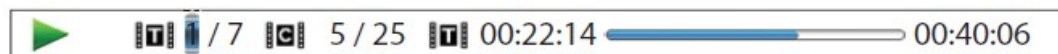
1 / 7　5 / 25　00:22:14　00:40:06

この表示には、次の情報が含まれます。
再生状態(プレイ/ポーズ)、タイトル、チャプター、時間カウンター、再生位置バー、タイトル全体の時間

[**GOTO**ボタン] を押す度に以下の順でカーソルが移動しサーチモードが変わります。

1. タイトルの時間を指定して再生 ：
[**GOTO**ボタン] を押すと、初めにオンスクリーン表示の時間表示にカーソルが来ます。[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**時間、分、秒を入力し、**[**ENTER**ボタン] を押します。

1 / 7　5 / 25　00:22:14　00:40:06

2. チャプターの時間を指定して再生 ：
初めに [**INFO**ボタン] を押しオンスクリーン表示を出します。次に、[**PAGE UP/DOWN**ボタン] でチャプター時間表示に切り替えます。(時間表示の左のアイコンがチャプター表示 C に変わります)
[**GOTO**ボタン] を押すと、チャプターの時間表示にカーソルが来ます。[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**時間、分、秒を入力し**、[**ENTER**ボタン] を押します。

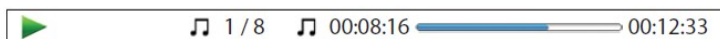
▶ T 1 / 7 C 5 / 25 C 00:06:48 00:08:33

3. チャプター番号を指定して再生 ：
[**GOTO**ボタン] を何度か押してチャプター番号表示にカーソルを合わせます。
[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**チャプター番号を入力し**、[**ENTER**ボタン] を押します。

▶ T 1 / 7 C 5 / 25 T 00:22:14 00:40:06

4. タイトル番号を指定して再生 ：
[**GOTO**ボタン] を何度か押してタイトル番号表示にカーソルを合わせます。
[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**タイトル番号を入力し**、[**ENTER**ボタン] を押します。

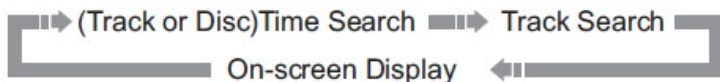
▶ T 1 / 7 C 5 / 25 T 00:22:14 00:40:06

※ディスクによってはサーチ操作ができないものもあります。また、BDの中には独自のサーチ機能を持つものもありますので、その場合は、オンスクリーン表示の指示に従って操作してください。

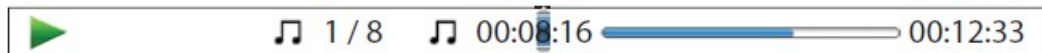
●CD,SACD の場合

CD,SACDディスク再生中に、直接時間を指定して再生することができます。
CD,SACDディスク再生中には、自動的に次のようなオンスクリーン表示が現れます。

▶ ♫ 1 / 8 ♫ 00:08:16 00:12:33

この表示には、次の情報が含まれます。
再生状態(プレイ/ポーズ)、トラック番号、時間カウンター、再生位置バー、総時間

[**GOTO**ボタン] を押す度に以下の順でカーソルが移動しサーチモードが変わります。

(Track or Disc)Time Search → Track Search → On-screen Display

1. トラックの時間を指定して再生 ：
[**GOTO**ボタン] を押して、[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**時間、分、秒を入力し**、[**ENTER**ボタン] を押します。

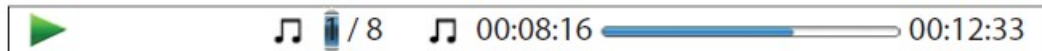
▶ ♫ 1 / 8 ♫ 00:08:16 00:12:33

2. ディスク全体の時間を指定して再生 ：
オンスクリーン表示を出ている状態で、[**PAGE UP/DOWN**ボタン] でディスク時間表示に切り替えます。(時間表示の左のアイコンがディスク表示 ● に変わります) [**GOTO**ボタン] を押して、[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**時間、分、秒を入力し**、[**ENTER**ボタン] を押します。

▶ ♫ 5 / 8 ● 00:40:46 01:02:33

3. トラック番号を指定して再生 ：
[**GOTO**ボタン] を何度か押してトラック番号表示にカーソルを合わせます。
[**数字ボタン**] と [**矢印ボタン**] で、希望の**トラック番号を入力し**、[**ENTER**ボタン] を押します。

▶ ♫ 1 / 8 ♫ 00:08:16 00:12:33

[オートレジューム再生]

BD DVD DVD-A SACD CD

STOP,OPEN,POWERの各操作によって再生が中断されると、本機は自動的にその箇所を記憶します。
次にそのディスクがセットされると、本機はその箇所から再び自動的に再生を開始します、この機能をオートレジューム再生と言います。

※ディスクをセットした後に、レジューム再生の是非を問う画面が表示された際、最初からの再生を望む場合には、[**STOP**ボタン] を押します。
※レジューム機能は最大5枚までのディスクに対して働きます。6枚目からは初めの1枚目の記録が消去され置き換わります。
※BDの中にはレジューム再生に対応しないものもあります。

※レジューム機能は、セットアップメニューの **[Playback Setup > Auto Resume > Off] の設定**により**無効**にすることができます。

[DVD オーディオディスクの画像表示]

DVD-A

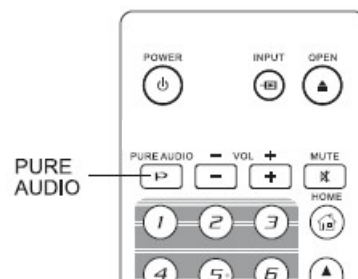
DVDオーディオディスクの中には、アーティストやアルバム解説などの静止画像が収録されているものもあります。
その場合、[**PAGE UP/DOWN**ボタン] で表示画像を選ぶことが可能です。

[ピュアオーディオ・モード]

BD DVD DVD-A SACD CD

ビデオ処理と出力をオフにしてオーディオ回路へのビデオ干渉を軽減し、高品位オーディオを楽しむための機能です。

1. [PURE AUDIOボタン] を押すと本機能が起動し、映像出力が遮断し、フロントパネル・ディスプレーも消灯します。
2. もう一度押すと通常モードに復帰します。

※本モードは再生を停止したり電源を切ると通常モードに復元します。
※HDMIではビデオ信号は完全停止するのではなく、黒画面となります。

メディアファイル再生

本機は、BD,DVD,CD,SACD などのスタンダード・ディスクフォーマット以外に、メディアファイルの再生ができます。メディアファイルにはデータディスク(記録用の CD、DVD、BD)や USB メモリーに保存したデジタル音楽、映画、写真などがあります。※但し、多種多様なメディア、エンコードソフトウェア、技術様式などの違いにより、全てのユーザーファイルやダウンロードファイルの再生を保証するものではありません。

[USB フラッシュドライブからの再生]

フロントパネルのUSB端子、リアパネルのUSB1/USB2端子にUSBドライブを接続して再生することが可能です。

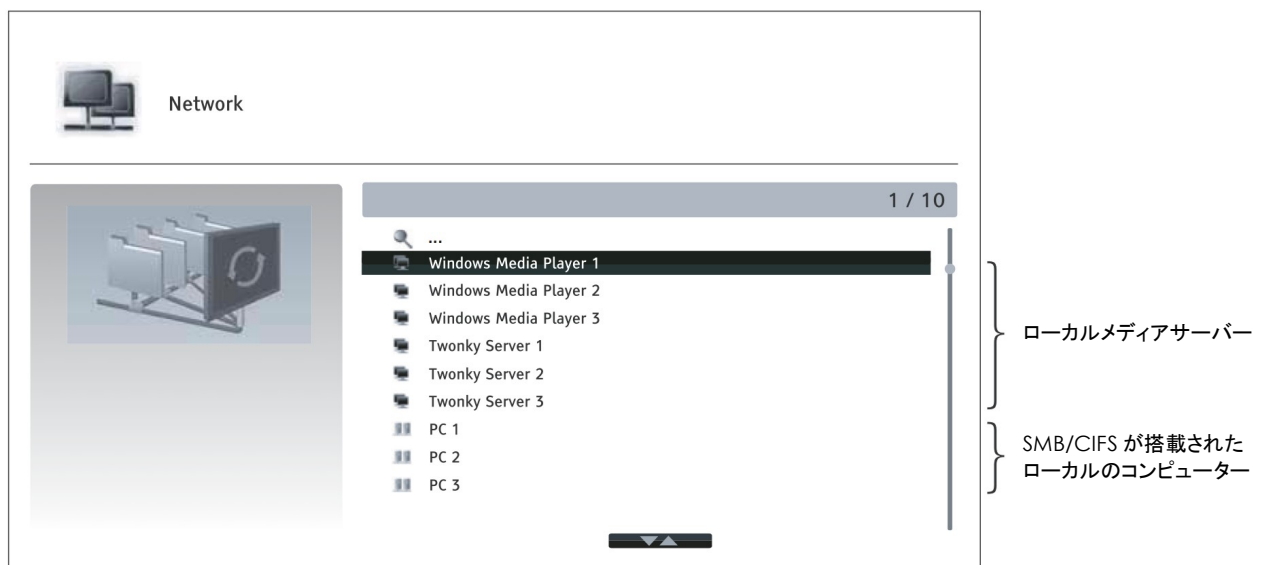
※USBポートの電力供給能力は最大5V1Aです。USBメモリーには十分ですが、USBハードディスクでは不足する場合があります。その際は、外付け電源をご使用ください。

※サポート対象のUSBドライブは、"USB Mass Strage Class Bulk-Only Transport"(USBマスストレージクラス・バルクオンリートランスポート)に準拠したデバイスのみです。ほとんどのポータブルハードディスクドライブやフラッシュドライブはこのクラス準拠であり問題ありませんが、MP3プレーヤー、デジカメ、携帯電話などは準拠しないものもあります。

※サポート対象のUSBドライブはFAT(File Allocation Table)、FAT32、NTFS(New Technilogy File System)のファイルシステムでフォーマットされていることが必要です。

※互換性の無いUSBデバイスを使用すると、本機の応答が無くなってしまうことがあります。そのときは、電源を切ってUSBデバイスを取り外してから再度電源を立ち上げてください。

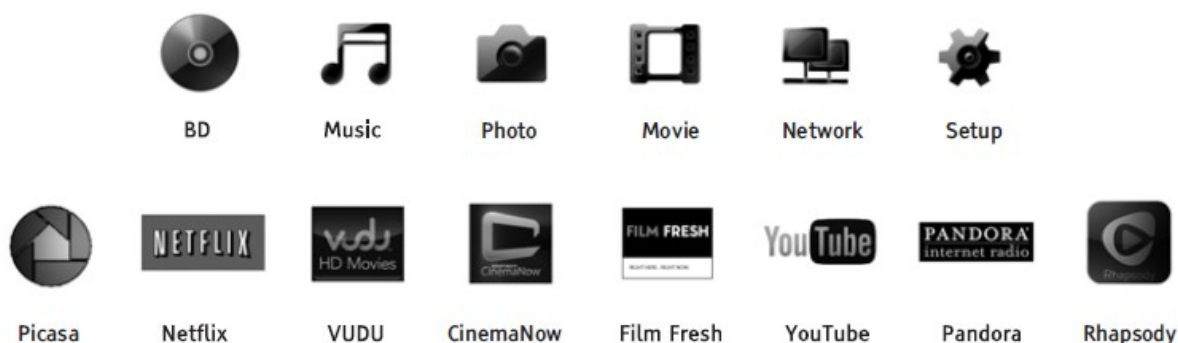
※本機はUSBドライブに対して読み込みモードでアクセスします。データの破損など不慮のトラブルを防止するため再生が完全に停止したことを確認してからUSBドライブを取り外してください。

[ホームネットワーク内のメディア再生]

本機はLAN接続されたホームネットワーク内にあるDLNAあるいはSMB/CIFS(ネットワーク共有プロトコル)に対応したPCやNASなどのメディアデバイスに保存され共有設定された音楽、写真、ビデオなどのメディアをリモート再生することができます。また、本機はDMR(デジタルメディアレンダラー)としてiPadなどからのDMC(デジタルメディアコントローラー)によるコンテンツ再生にも対応します。

・セットアップメニューの[**My Network > On**] の設定を行ない、リモコンの[**HOME**ボタン] を押して**Home**メニューの [**Network**アイコン] を選び[**ENTER** ボタン] を押すと利用可能なメディアデバイス(サーバー)が表示されます。

※本機からサーバーが見えるようにするためにはサーバーとなるメディアデバイスのファイアーウォールを無効にする必要がある場合があります。

[HOME メニューの再生メディア]

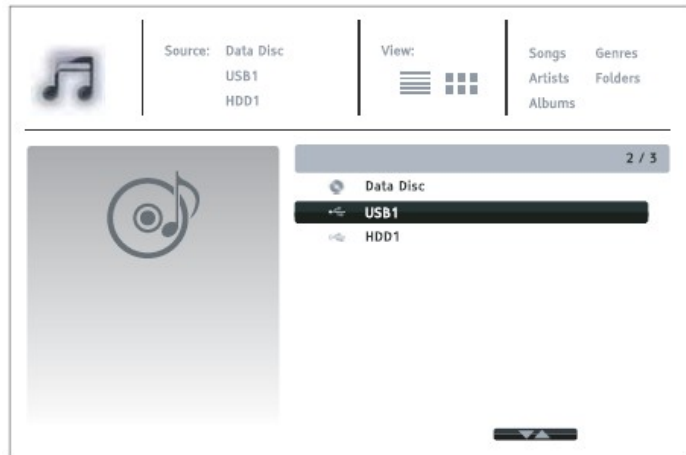
本機が再生できるメディアは、Homeメニューから検索し指定することができます。
リモコンの[**HOME**ボタン] を押して次の**Home**メニューを立ち上げます。

[矢印ボタン] と[**ENTER**ボタン] で、これら14種類のメニューから再生したいメディアを選びます。

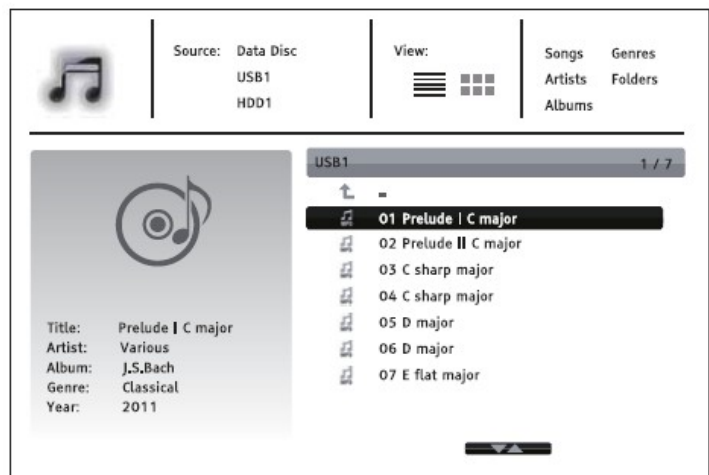
・ディスク ： セットされているディスクを再生します。(ディスクに応じてBD,SACDなどと表示されています)
・Music / Photo / Movie： 接続されているUSBドライブまたはセットされたデータディスクから音楽、写真、ムービーのメディアファイルにアクセスします。
・Network： ホームネットワーク内のメディアサーバーにあるオーディオ、ビデオ、写真をストリーム再生します。
・Setup： セットアップメニューを立ち上げます。(リモコンの[SETUPボタン]と同じ)
・Picasa： オンラインサービス"Picasa"のアカウントに接続し、写真表示と共有機能を提供します。
・Netflix： オンライン映像配信サービス"Netflix"のアカウントに接続し、ムービーストリーミング機能を提供します。
・VUDU： オンライン映像配信サービス"VUDU"のアカウントに接続し、ムービー、テレビ番組レンタル/購入、ストリーミング機能を提供します。
・CinemaNow： オンライン映像配信サービス"CinemaNow"のアカウントに接続し、ムービー、テレビ番組レンタル/購入、ストリーミング機能を提供します。
・Film Fresh： オンライン映像配信サービス"Film Fresh"のアカウントに接続し、ムービー、テレビ番組レンタル/購入、ストリーミング機能を提供します。
・YouTube：YouTubeからHDビデオストリーム再生します。
・Pandora： インターネットラジオ"Pandora"のアカウントに接続します。
・Rhapsody： インターネット音楽サービス"Rhapsody"のアカウントに接続します。

※インターネットストリーミングのアプリの違いにより、上記各種サービスの終了の仕方が異なります。
Netflix,YouTubeの終了には[HOMEボタン]を押します。VUDU,FilmFresh,Picasaの終了には[HOMEボタン]を押すかホームメニューが表示されるまで[RETURNボタン]を繰り返し押します。Pandoraを終了するには[HOMEボタン]を押すかPandoraのメニュー選択でExit Pandoraを選びます。
※日本国内ではサービスが利用できない場合があります。

[音楽ファイルの再生]

光ディスクやUSBドライブなどのデバイスに記録したデジタル音楽ファイルの再生は、HomeメニューでMusicを選択し、表示されたファイルブラウザでファイルやホルダーを検索し行ないます。

1. デバイスを選びます。

2. 数秒後にそのデバイスに収録された音楽ファイルを表示します。

3. [上下矢印ボタン]や[PAGE UP/DOWNボタン]で再生したいファイルを選び[ENTERボタン]押すと再生を始めます。

※[TOP MENUボタン]で画面上部のカテゴリーメニューに移動します。ここでは次の選択ができます。
・Source : 選択可能な別のデバイスに切り替えができます。
・View : リストビューとホルダービューを切り替えます。
・Sort : 音楽ファイル/ホルダーを曲名、アーティスト、アルバムジャンルなどのカテゴリーに従ってリストします。

※データディスクやUSBドライブがセットされると、本機はバックグラウンドで、ファイルのインデックスのデータベース作成を行ないます。ファイルの数やサイズによっては、この作業に数分を要することがあります。

※再生が始まって数秒後には、再生状態(プレイ/ポーズ/停止など)、トラック情報、時間表示などを顕すNow Playingの表示に切り替わります。

Now Playingの表示中は以下の操作が可能です。

・標準の再生操作 ：PLAY, STOP, PAUSE, PREV/NEXT, REV/FWD
・特別な再生モード ：REPEAT, SHUFFLE/RANDOM,(青ボタン)
・OPTIONボタンによるOptionメニュー表示
・再生を中止せずにブラウザに戻る: RETURN
・再生を停止してブラスザに戻る ：STOP

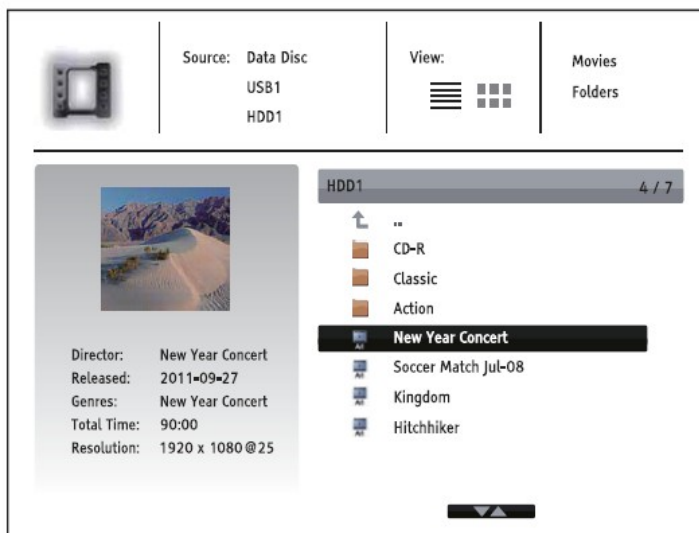
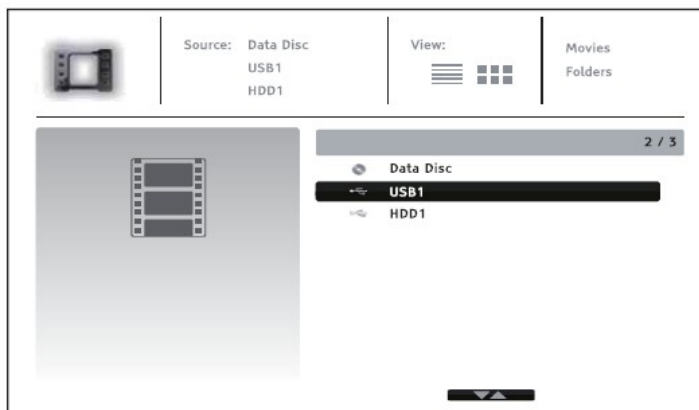
[ムービーファイルの再生]

光ディスクやUSBドライブなどのデバイスに記録したムービーファイルの再生は、Homeメニューで Movieを選択し、表示されたファイルブラウザでファイルやホルダーを検索し行ないます。

1. デバイスを選びます。

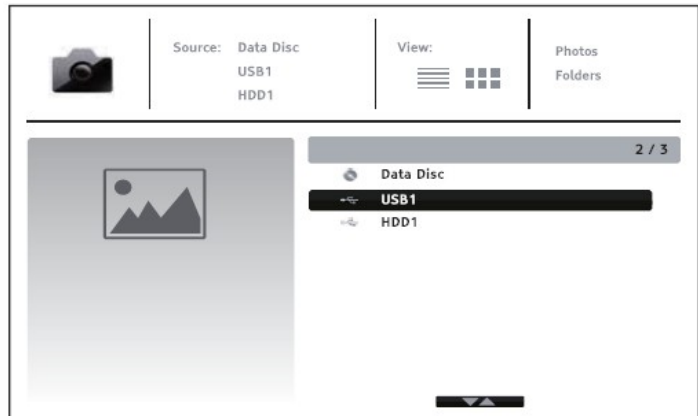
2. 数秒後にそのデバイスに収録されたムービーファイルを表示します。

3. [上下矢印ボタン]や[PAGE UP/DOWNボタン]で再生したいファイルを選び[ENTERボタン]押すと再生を始めます。

※[TOP MENUボタン]で画面上部のカテゴリーメニューに移動します。このメニューの機能は[音楽ファイルの再生] と同様です。

・再生が始まると通常の再生操作が可能となります。
・再生を停止してブラスザに戻るには ［ STOP ］ を押します。また、[HOME ボタン] を押すといつでも再生を停止してHomeメニューに戻ります。
・[OPTIONボタン] を押すと、ビデオ情報、字幕切替、映像調整、映像拡大などの操作にアクセスできます。

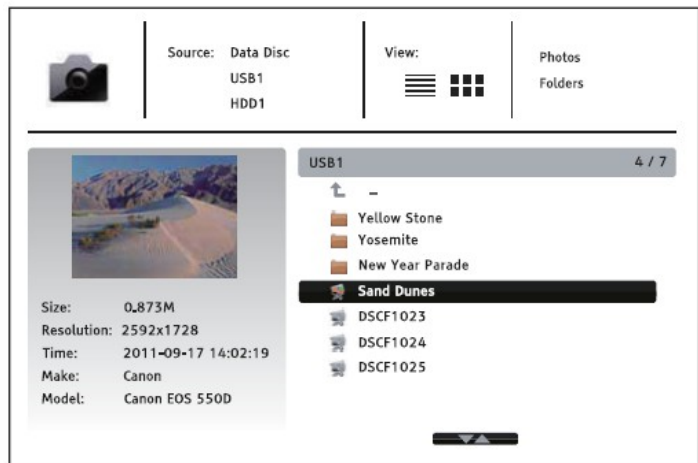
[写真ファイルの再生]

光ディスクやUSBドライブなどのデバイスに記録した写真ファイルの再生は、Homeメニューで Photoを選択し、表示されたファイルブラウザでファイルやホルダーを検索し行ないます。

1. デバイスを選びます。

2. 数秒後にそのデバイスに収録された写真ファイルを表示します。

3. [上下矢印ボタン]や[PAGE UP/DOWNボタン]で再生したいファイルを選びます。

※写真ファイルがカーソルでハイライト表示されているときに、[ENTER] や[PLAY] ボタンを押すと、フルスクリーンでスライドショーモードで再生が始まります。

※[TOP MENUボタン]で画面上部のカテゴリーメニューに移動します。

※スライドショー再生中は次の操作が可能です。
・ヘルプの表示 : INFO
・再生コントロール : PLAY, STOP, PAUSE, PREV/NEXT
・スライドショーの速度 : REV, FWD
・ズーム : ZOOM 拡大表示の後は矢印ボタンで写真をパン移動できます。
・水平方向に反転 : 下矢印ボタン
・垂直反転 : 上矢印ボタン
・90° 毎に反時計回りに回転 : 左矢印ボタン
・90° 毎に時計回りに回転 : 右矢印ボタン
・繰り返し : REPEAT
・サムネール表示 : 赤ボタン
・写真データ情報の表示 : 緑ボタン
・シャッフル/ランダムにスライド : 青ボタン
・スライド時の画面転換効果の切替 : 黄ボタン

・OPTIONボタン : ズーム、回転などの操作メニューが表示されます。

[バックグラウンドミュージックの再生]

写真のスライドショーの時に、バックグラウンドミュージック再生ができます。
まず、光ディスクやUSBドライブなどのデバイスに記録したデジタル音楽ファイルを再生します(前記[音楽ファイルの再生]を参照)。 次に、HOMEメニューに戻り、写真ファイルを再生します(上記手順を参照)。
※音楽ファイルと写真ファイルの保存先は同一のデバイスでも別でも構いません。(但し、CDなどのソースはバックグラウンドミュージックとしては使用できません。)

トラブルシューティング

●MSB PRO I2S接続で音が出ない ： モデル名に"plus"の付いていない旧MSB DACのMSB Network入力端子との接続では本機は動作しません。その場合は、"PRO I2S"入力モジュールに変更が必要です。

●SACD再生時にノイズが出る ：MSBデジタル出力端子からMSB以外のDACに接続した場合、そのDACがDoP形式DSDのフォーマットに対応していないとノイズになります。この場合、セットアップメニューで、SACD出力形式を"PCM"に変更が必要です。⇒リモコンのボタンを次のように順に押すと変更できます。<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <5>

●MSBデジタル出力をマルチchモードとしてMSB以外のDACに接続しマルチchのSACDを再生をするとノイズが出たり動作しない ： マルチchモードでのMSBデジタル出力はDoP形式DSD出力に限定されます。この場合、SACD出力形式を"DSD"に以外にすれば動作可能ですが、出力品位が下がりますのでお勧めできません。

●SACD再生時、MSB DACのディスプレーにDSDのデータ表示がされない ： 以下の原因が考えられます。
1. HDMIオーディオ出力がONになっている ⇒OFFにしてください。それでもだめな場合は、一旦本機をOFFにしHDMI接続を外し、再度ONにします。
2. SACDの再生レイヤーの設定がCDになっている⇒SACD 2chモードに設定しなおしてください。
3. MSBデジタル出力形式がPCMになっている⇒SACD出力形式を"DSD"に変更してください。⇒リモコンのボタンを次のように順に押すと変更できます。<DIMMER> <DIMMER> <DIMMER> <4>

●映画などマルチチャンネルソースの再生で台詞などのセンターチャンネルが再生されない ： 本機のMSBデジタル出力のチャンネル設定はデフォルトではすべてが2ch(フロントL&R)となっています。また、これをマルチチャンネル設定としても、PRO I2SとAES/EBU出力からはフロントL/Rが、3組のMSB同軸出力からはセンター/サブ、サラウンド、サラウンドバックなどが別々に出力されます。マルチチャンネルソースを2chで再生する必要がある場合は、セットアップメニュー⇒オーディオプロセッシング⇒Speaker Configuration⇒2ch Down Mix への設定変更が必要です。

●再生できないDSDファイルがある ： 本機はDSD 64xにのみ対応します。DSD 128xのファイルは再生されずスキップされます。

●電源が入らない ： 本機のDC電源入力端子は2系統あります。電源ユニット一台を2ND DIGITAL SUPPLY端子に接続した場合は動作いたしません。もう一方のDC電源入力端子に接続してください。

主な仕様

●デジタルオーディオ出力: 3xRCA, Toslink, AES/EBU, MSB PRO I2S
●ビットストリームサラウンド・デジタルオーディオ出力: 1xRCA, Toslink
●アナログ出力： 無し
●ビデオ(and/or オーディオ)出力: 2xHDMI(1.4)
●メディアコネクション: 3xUSB, LAN
●最大デジタル出力レゾルーション：24bit/192kHz PCM, 32bit/192kHz&SACD-dirct PROI2S
●ファイルタイプ: WAV,FLAC, DSD64x, MP3, Dilby Digital,HD, dts HD, etc.
●ディスクタイプ: CD, SACD, Blu-ray(Audio, 3D, BD-Live, BD-R/RE), HRx, DVD(Audio,Video), etc.

●電源: 100V AC, 50/60Hz
●消費電力：30W
●外形寸法：本体: 441W x 60H x 325D (mm)
●重量：本体: 6kg

※改良のため予告なく仕様変更される場合があります。

言語コード一覧

プレイバック・セットアップメニューの中の言語メニュー(ディスクメニュー言語、音声言語、字幕言語)に表示された言語以外は"Other"項目に直接言語コードを入力して設定が可能です。
以下の言語コード一覧をご参照の上、コード数字を入力して設定してください。

Abkhazian (ab), 6566
Afar (aa), 6565
Afrikaans (af), 6570
Albanian (sq), 8381
Amharic (am), 6577
Arabic (ar), 6582
Armenian (hy), 7289
Assamese (as), 6583
Aymara (ay), 6588
Azerbaijani (az), 6590
Bashkir (ba), 6665
Basque (eu), 6985
Bengali (bn), 6678
Bhutani (dz), 6890
Bihari (bh), 6672
Breton (br), 6682
Bulgarian (bg), 6671
Burmese (my), 7789
Byelorussian (be), 6669
Cambodian (km), 7577
Catalan (ca), 6765
Chinese (zh), 9072
Corsican (co), 6779
Croatian (hr), 7282
Czech (cs), 6783
Danish (da), 6865
Dutch (nl), 7876
English (en), 6978
Esperanto (eo), 6979
Estonian (et), 6984
Faroese (fo), 7079
Fiji (fj), 7074
Finnish (fi), 7073
French (fr), 7082
Frisian (fy), 7089
Galician (gl), 7176
Georgian (ka), 7565
German (de), 6869
Greek (el), 6976
Greenlandic (kl), 7576
Guarani (gn), 7178
Gujarati (gu), 7185
Hausa (ha), 7265
Hindi (hi), 7273
Hungarian (hu), 7285
Icelandic (is), 7383
Indonesian (in), 7378
Interlingua (ia), 7365
Irish (ga), 7165
Italian (it), 7384
Hebrew (iw), 7387
Japanese (ja), 7465
Javanese (jw), 7487
Kazakh (kk), 7575
Kannada (kn), 7578
Kashmiri (ks), 7583
Kirghiz (ky), 7589
Korean (ko), 7579
Kurdish (ku), 7585
Laothian (lo), 7679
Latin (la), 7665
Lingala (ln), 7678
Lithuanian (lt), 7684
Latvian (lv), 7686
Macedonian (mk), 7775
Malagasy (mg), 7771
Malay (ms), 7783
Malayalam (ml), 7776
Maltese (mt), 7784
Maori (mi), 7773
Marathi (mr), 7782
Moldavian (mo), 7779
Mongolian (mn), 7778
Nauru (na), 7865
Nepali (ne), 7869
Norwegian (no), 7879
Oriya (or), 7982
Panjabi (pa), 8065
Pashto, Pushto (ps), 8083
Persian (fa), 7065
Polish (pl), 8076
Portuguese (pt), 8084
Quechua (qu), 8185
Rhaeto-Romance (rm), 8277
Romanian (ro), 8279
Russian (ru), 8285
Samoan (sm), 8377
Sanskrit (sa), 8365
Scots-Gaelic (gd), 7168
Serbian (sr), 8382
Serbo-Croatian (sh), 8372
Shona (sn), 8378
Sindhi (sd), 8368
Singhalese (si), 8373
Slovak (sk), 8375
Slovenian (sl), 8376
Somali (so), 8379
Spanish (es), 6983
Sundanese (su), 8385
Swahili (sw), 8387
Swedish (sv), 8386
Tagalog (tl), 8476
Tajik (tg), 8471
Tamil (ta), 8465
Tatar (tt), 8484
Telugu (te), 8469
Thai (th), 8472
Tibetan (bo), 6679
Tigrinya (ti), 8473
Tonga (to), 8479
Turkish (tr), 8482
Turkmen (tk), 8475
Twi (tw), 8487
Ukrainian (uk), 8575
Urdu (ur), 8582
Uzbek (uz), 8590
Vietnamese (vi), 8673
Volapük (vo), 8679
Welsh (cy), 6789
Wolof (wo), 8779
Xhosa (xh), 8872
Yiddish (ji), 7473
Yoruba (yo), 8979
Zulu (zu), 9085

保証

本機の保証はアクシス株式会社が行ないます。
同梱の保証登録カードに必要事項をご記入の上、ご購入後 10 日以内に下記宛にご返送ください。
折り返し、保証書をお送りいたします。
無償保証期間は 2 年間です。
保証についての詳細は、保証書をご覧ください。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-34-27
アクシス株式会社
TEL 03-5410-0071 / FAX 03-5410-0622